Sasaki

取扱説明書

有機ペレット散布機

OPS-7/OPS-7 D



本製品を安全に、また正しくお使いいただくために必ず本取扱説明書をお読みください。
誤った使い方をすると事故を引き起こす恐れがあります。
ご使用前に必ずお読みください。お読みになった後も必ず製品の近くに保管してください。

安全作業で家族も笑顔

目　次

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・1
安全に作業するために・・・・・・・・・・2
安全銘板の貼り付け位置・・・・・・・・・8
保証とサービスついて・・・・・・・・・・9
各部の名称・・・・・・・・・・・・・・・10
組立方法・・・・・・・・・・・・・・・・12
◎スタンドの装着方法・・・・・・・・・12
トラクタへの装着方法・・・・・・・・・・13
◎装着前の準備・・・・・・・・・・・・・13
◎ユニバーサルジョイントの準備・・・14
◎ＪＩＳ標準オートヒッチの場合・・・16
◎ＪＩＳ特殊オートヒッチの場合・・・18
◎標準３点リンク（直装）仕様の場合・20
装着後の調整と準備・・・・・・・・・・・22
電動リモコンシャッターの取扱方法・・・24
◎梱包品の確認と各部の名称と働き・・25
◎リモコンと受信機のペア確認・・・・25
◎取り付け接続方法・・・・・・・・・・26
◎電源の入れ方・・・・・・・・・・・・28
◎散布作業モードとモード切替方法・・32
◎各散布作業モードの基本操作・・・・33
開度設定モードの基本操作・・・・33
車速優先モードの基本操作・・・・34
作業前の点検・・・・・・・・・・・・・・39
移動、圃場の出入り・・・・・・・・・・・40
作業方法・・・・・・・・・・・・・・・・41
◎散布作業の注意事項・・・・・・・・・41
◎肥料について・・・・・・・・・・・・41
◎散布量の設定・・・・・・・・・・・・41
◎散布量と車速の決め方・・・・・・・・42
◎肥料の投入・・・・・・・・・・・・・43
片側散布の方法・・・・・・・・・・・・・45
散布方法・・・・・・・・・・・・・・・・45
散布作業・・・・・・・・・・・・・・・・46
点検・整備・・・・・・・・・・・・・・・47
◎ボルト、ナットのゆるみの点検・・・47
◎給油・・・・・・・・・・・・・・・・・48
◎シャッター開度の調整・・・・・・・・49
保守管理・・・・・・・・・・・・・・・・51
◎シャッター部の分解清掃・・・・・・52
灯火器について・・・・・・・・・・・・・53
トラブルの原因と処置方法・・・・・・・55
主要諸元・・・・・・・・・・・・・・・・57

商品をお買い上げいただき

誠にありがとうございます。

はじめに

- この取扱説明書は、有機ペレット散布機(以下本機)の使用注意事項について記載しております。ご使用前には、必ずこの取扱説明書を熟読するまでお読みのうえ、正しくお取り扱いいただき、最良の状態でお使いください。
- 本機は肥料の散布をする機械です。その他の目的に使用しないでください。
- お読みになった後は必ず製品に近接して保管してください。
- 本機を貸与または譲渡された場合は、この取扱説明書を商品に添付してお渡しください。
- この取扱説明書を紛失または損傷された場合は、速やかに当社の特約店・販売店または JA にご注文ください。
- なお、品質・性能向上あるいは安全上、使用部品の変更を行うことがあります。
- その際には、本書の内容及び写真・イラストなどの一部が、本機と一致しない場合がありますので、ご了承ください。
- ご不明なことやお気付きの点がございましたら、お買い上げいただきましたお店、またはお近くの特約店・販売店・JA にご相談ください。
- ⚠ 印付きの下記のマークは、安全上特に重要な項目ですので、必ずお守りください。

⚠ **危険**	この警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを意味します。
⚠ **警告**	この警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを意味します。
⚠ **注意**	この警告文に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるものを意味します。
重要	注意事項を守らないと、機械の損傷や故障のおそれのあるものをあらわします。
補足	その他、使用上、役に立つ補足説明をあらわします。

- この取扱説明書には安全に作業していただくために、安全上のポイント「安全に作業するために」を記載してあります。ご使用前に必ずお読みください。

安全に作業をするために

本機をご使用になる前に、この取扱説明書をよく読み、ご理解いただいたうえで安全な作業を行ってください。安全に作業するためにぜひ守っていただきたい注意事項は下記の通りですが、これ以外にも本文の中で「⚠ 警告サイン」として説明のつど取り上げております。

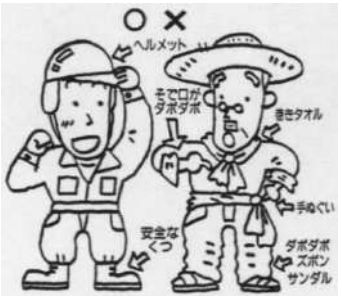
● 一般的な注意事項

⚠ 警告　こんな時は作業しない



- ◆ 過労・病気・薬物の影響、その他の理由により作業に集中できないとき。
- ◆ 酒を飲んだとき。
- ◆ 妊娠しているとき。
- ◆ １８歳未満の人。

⚠ 警告　作業に適した服装をする

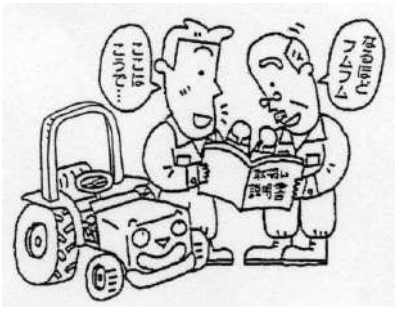


はちまき・首巻き・腰タオルは禁止です。ヘルメット・滑り止めのついた靴を着用し、作業に適した防護具などをつけ、だぶつきのない服装をしてください。

【守らないと】

機械に巻き込まれたり、滑って転倒したりするおそれがあります。

⚠ 警告　機械を他人に貸すときは取扱方法を説明する

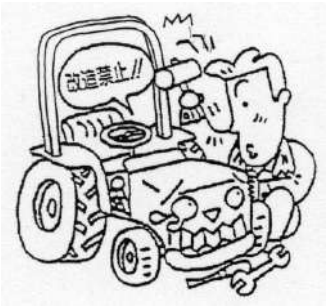


取扱方法をよく説明し、使用前に「取扱説明書」を必ず読むように指導してください。

【守らないと】

死亡事故や重大な傷害、機械の損傷をまねくおそれがあります。

⚠ 注意　機械の改造禁止



純正部品や指定以外のアタッチメントを取り付けないでください。

【守らないと】

事故・ケガ・機械の故障をまねくおそれがあります。

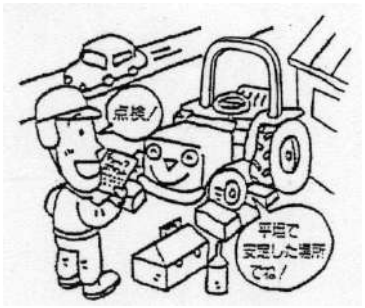
● 作業の前に

⚠ 警告　始業点検整備は平坦で安定した場所で行う

交通の危険がなく、機械が倒れたり動いたりしない平坦な安定した場所で、トラクタの前輪には車止めをして点検整備してください。

【守らないと】

機械が転倒するなど、思わぬ事故をまねくおそれがあります。

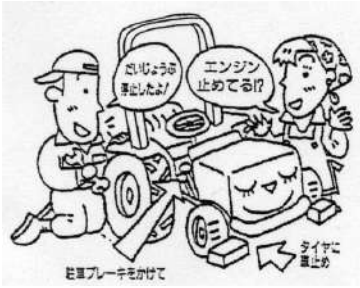


⚠ 警告　点検整備中はエンジン停止

点検・整備・修理または掃除をするときは、必ずエンジンを停止してください。

【守らないと】

機械の下敷きになるなど、傷害事故をおこすおそれがあります。



⚠ 注意

- ◆ 作業の前には点検・整備を行ってください。
- ◆ 各部のボルト・ナットなどのゆるみや、ピンの脱落がないか確認してください。
- ◆ カバー類を外したら、必ず取り付けてください。

● トラクタへの着脱

⚠ 危険　運転時はジョイントカバーを外さないでください

【守らないと】

ジョイントに巻き込まれて傷害事故を起こすおそれがあります。



⚠ 警告　作業機の着脱は平坦な場所で行なう

作業機の着脱は平坦で安定した場所で行なってください。

夜間は、適切な照明をしてください。

【守らないと】

事故をおこすおそれがあります。



⚠ 警告　作業機の下にもぐったり、足を入れたりしない

作業機の下にもぐったり、足を踏み込んだりしないでください。

【守らないと】

何らかの原因で作業機が下がったときに、傷害事故を負うおそれがあります。



⚠ 警告　重い作業機をつけるときはウエイトでバランスを取る

重い作業機を装着したときは、フロントにバランスウエイトをつけてバランスを保ってください。

【守らないと】

バランスを崩して事故を引きおこすおそれがあります。



⚠ 注意

- ◆ トラクタから離れるときはエンジンを止め、駐車ブレーキをかけてＰＴＯ変速を中立にしてください。
- ◆ ２人以上で着脱を行う場合は、互いに合図を確認しあって作業してください。
- ◆ ユニバーサルジョイントの止めピンが確実に軸溝にはまっているか確認してください。
- ◆ 取り付け部のピンがすべて確実に装着されているか確認してください。

●　路上走行

⚠ 注意　トラクタに作業機を装着した状態での公道走行は法令を遵守する

トラクタに作業機を装着した状態で公道を走行する場合は、下記の法令を遵守する必要があります。

【道路運送車両法】　保安基準として、灯火装置や反射器、制限標識などを必要に応じて取付

【道路交通法】　免許区分に応じた運転免許証の携帯

【道路法】　一定の大きさや重量を超える場合は、特殊車両通行許可の申請

※詳細は農林水産省や日本農業機械工業会の HP をご覧頂くか、販売店にお問い合わせください。

【守らないと】

法令違反です。交通事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 注意

公道走行するときは、運行速度 15km/h 以下で走行してください。ただし、日本農業機械工業会の HP にある「安定性の確認が取れた組み合わせ」に記載があれば、15km/h 以上での走行が可能になります。15km/h 以上で走行する場合、「運行速度 15km/h 以下」と記載されたラベルは、はがしてください。

また、「安定性の確認が取れた組み合わせ」には公道走行時に必要なフロントウエイトの枚数と作業機の最低地上高を記載していますので、守ってください。

【守らないと】

法令違反です。交通事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 注意

公道走行する前に灯火器、反射ラベル（反射器）の点検、清掃を行ってください。

【守らないと】

法令違反です。交通事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 警告

- ◆ トラクタに運転者以外の人を乗せないでください。
- ◆ 作業機には乗らないでください。
- ◆ 作業機の PTO 回転を止めて走行してください。
- ◆ トラクタの落下速度調整ハンドルを回して必ず油圧ロックをしてください。
- ◆ 旋回するときは、作業機に人や物が接触しないように注意してください。
- ◆ 作業機を装着した時、機体寸法が大きくなるので、走行時は十分注意してください。
- ◆ 溝のある農道や、両側が傾斜している農道では、路肩に十分注意して移動してください。
- ◆ 作業機の重みにより、トラクタの制動距離が延びる可能性があるので、早めにブレーキをかけるようにしてください。

【守らないと】

交通事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 危険

公道走行するときは、作業機に肥料、工具、部品などを積載しないでください。

【守らないと】

走行中に積載物が落下することで事故をおこしたり、機械が転倒したりするおそれがあります。

● 圃場の出入り

⚠ 注意

◆ 圃場に入るときは、必ず前進で速度を落し、作業機を低くして重心を下げ、畦や段差に対して直角に進んでください。

◆ 圃場から出るときも同様に、速度を落し、作業機を低くして重心を下げ、畦や段差に対して直角に進んでください。

◆ 急な坂などでは無理をせず、後退して圃場から出てください。

【守らないと】

畦や段差に対して斜め方向に進むと、横滑りや転倒するおそれがあります。

畦や段差に対して作業機を下側にすると、転倒するおそれがあります。

● 作業をしているとき

⚠ 警告　回転部（ツメ・刃、軸等）に巻き付いた草等を取るときはエンジン停止

【守らないと】

機械に巻き込まれて、重傷を負うおそれがあります。



⚠ 警告　子供を近づけない

子供には十分注意し、近づけないようにしてください。

【守らないと】

傷害事故を引き起こすおそれがあります。



⚠ 警告　トラクタと作業機の周辺に人を近づけない

トラクタを移動して作業機を着脱するときは、トラクタの周辺や作業機との間に人が入らないようにしてください。

【守らないと】

傷害事故を引き起こすおそれがあります。



⚠ 警告　作業機指定のＰＴＯ回転を守る

低速回転用の作業機を高速回転で使用しないでください。

作業機指定のＰＴＯ回転速度を厳守してください。

【守らないと】

作業機が異常作動し、事故や機械の破損を引き起こします。



⚠ 注意

- ◆ 補助作業者がある場合は、動作ごとに合図をかわしてください。
- ◆ 回転部分や動くところには触れないでください。

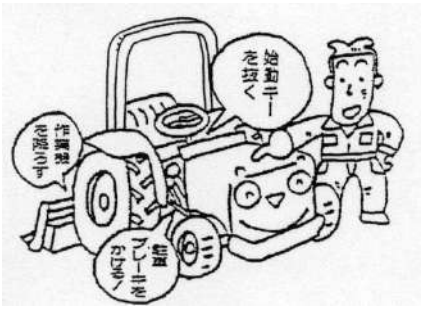
●　トラクタを駐停車するとき

⚠ 警告　機械から離れるときは作業機を地面に降ろして エンジンをとめる

機械から離れるときには、平坦で安定した場所に置き、エンジンを止めて、必ず駐車ブレーキを掛け車止めをしてください。

【守らないと】

トラクタが動きだし、事故を起こすおそれがあります。



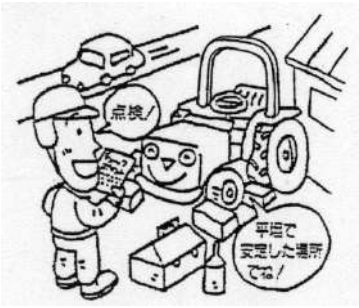
●　点検や格納のとき

⚠ 警告　点検整備は平坦で安定した場所で行う

機械から離れるときには、平坦で安定した場所に置き、エンジンを止めて、必ず駐車ブレーキを掛け車止めをしてください。

【守らないと】

トラクタが動きだし、事故を起こすおそれがあります。



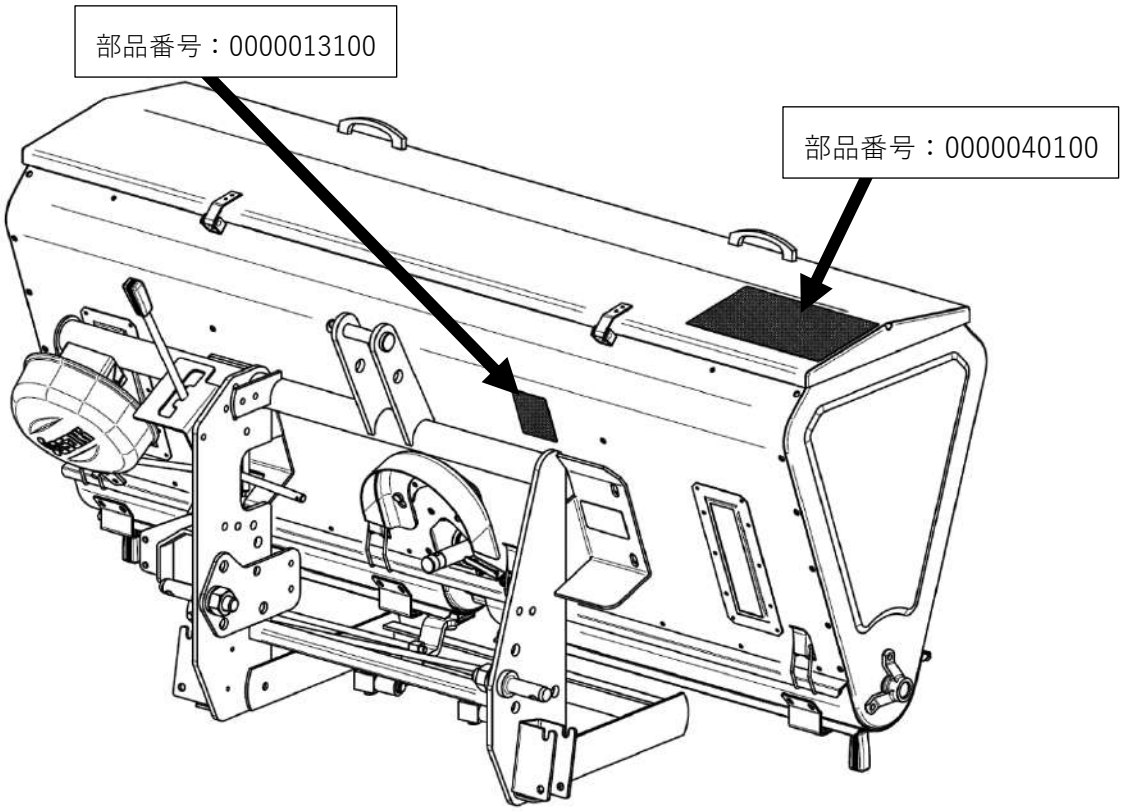
⚠ 注意

- ◆ 点検、整備時はトラクタのエンジンを止めてください。
- ◆ 機械の下にもぐったり、下で作業したりしないでください。
- ◆ キャスターなどが付いている場合は、車止めをして作業してください。

安全銘板の貼り付け位置







⚠ 注意

- 安全銘板が剥がれたり、破損した場合は、上記部品番号にて手配のうえ、貼り直してください。
- 新しい安全銘板を貼る場合は、汚れを完全にふき取り、乾燥させ、元の位置に貼ってください。

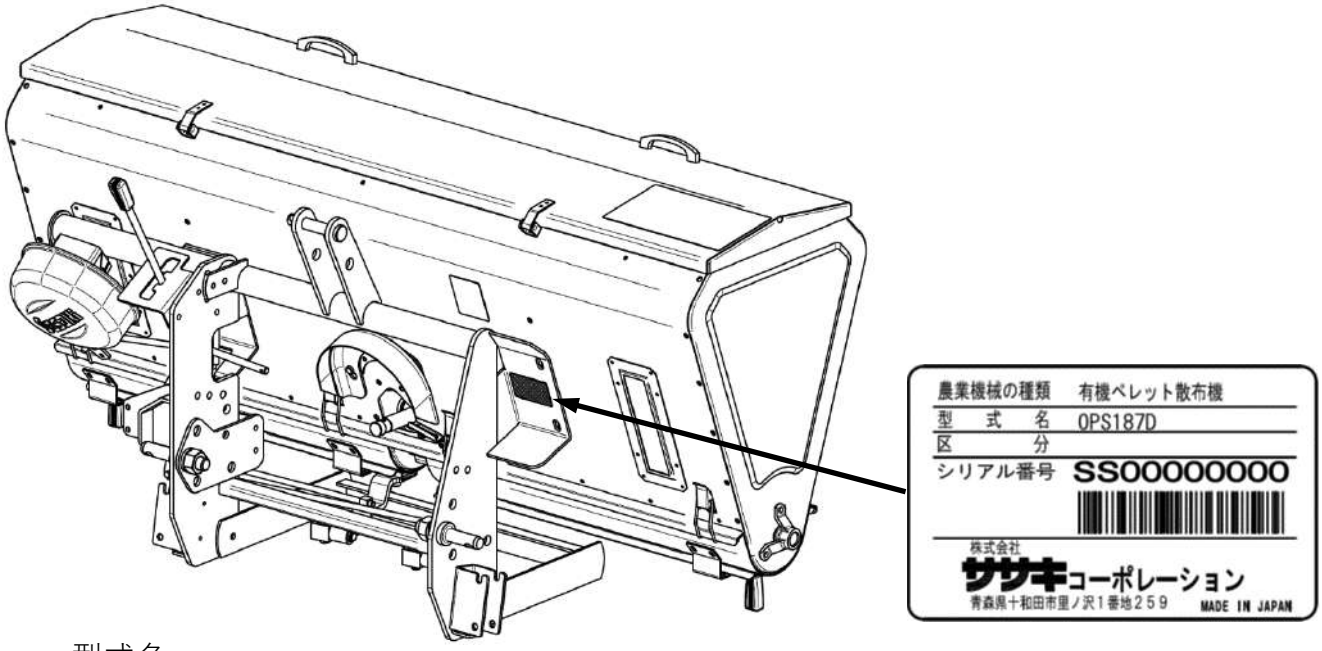
保証とサービスについて

● 保証書について

「保証書」はお客様が保証修理を受けられる際必要となるものです。お読みになった後は大切に保管してください。

● アフターサービスについて

ご使用中の故障やご不審な点等不具合がある場合は、お買い上げいただいた販売店等へご相談ください。その際、次のことをご連絡ください。



- 型式名
- シリアル番号
- 不具合状況（どのような現象ですか？･･･）
- ご使用状況（どのくらい作業していましたか？･･･）
- 不具合が発生した時の状況（どんな作業をしていた時に？･･･）

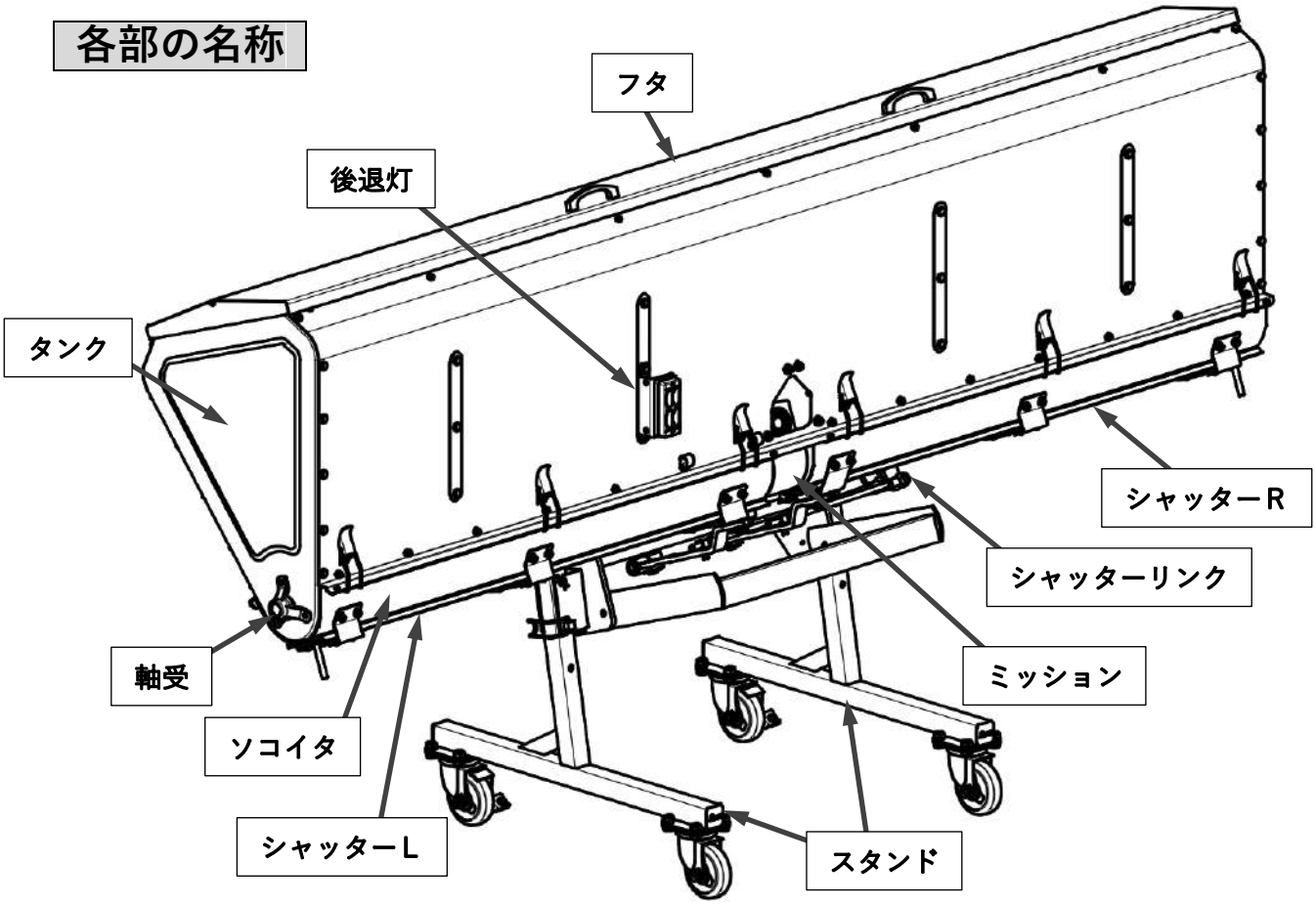
● 補修部品の供給年限について

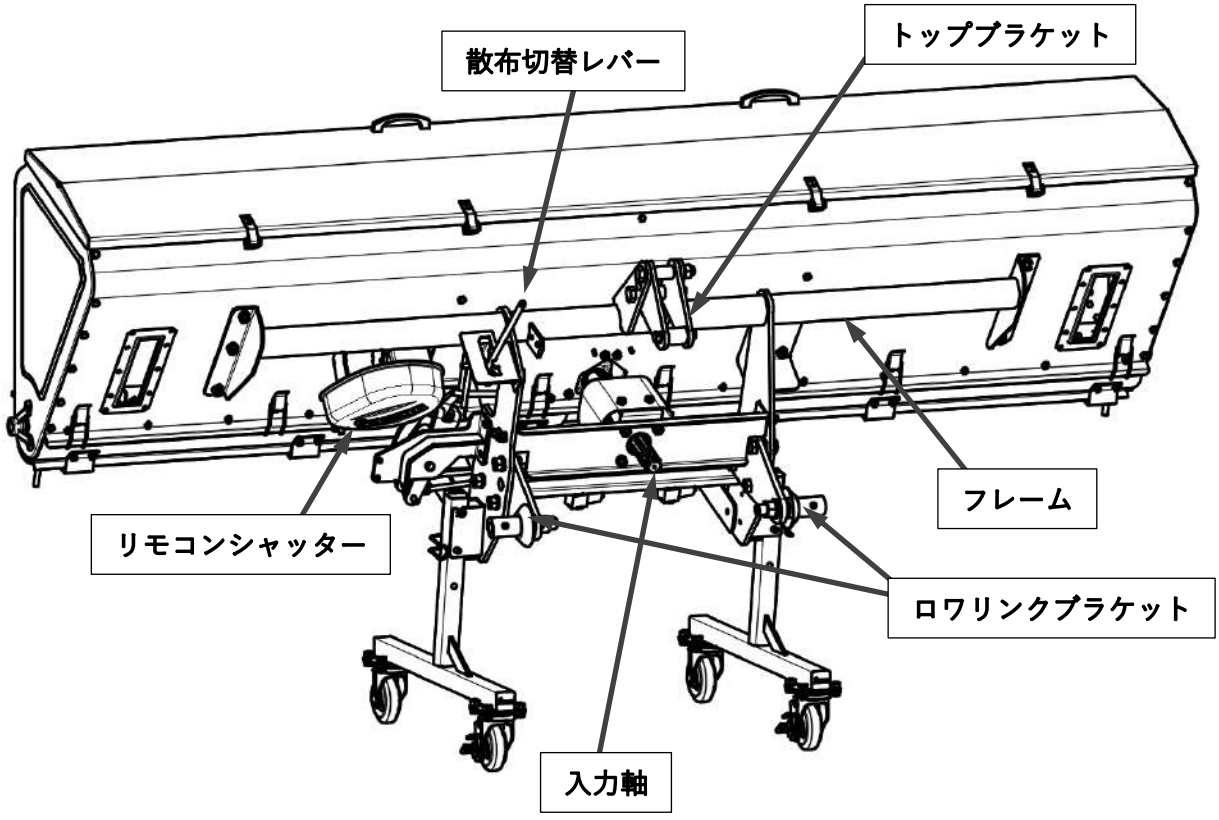
この製品の補修部品の供給年限は、製造打ち切り後９年です。ただし、供給年限内であっても特殊部品については納期等をご相談させていただく場合もあります。

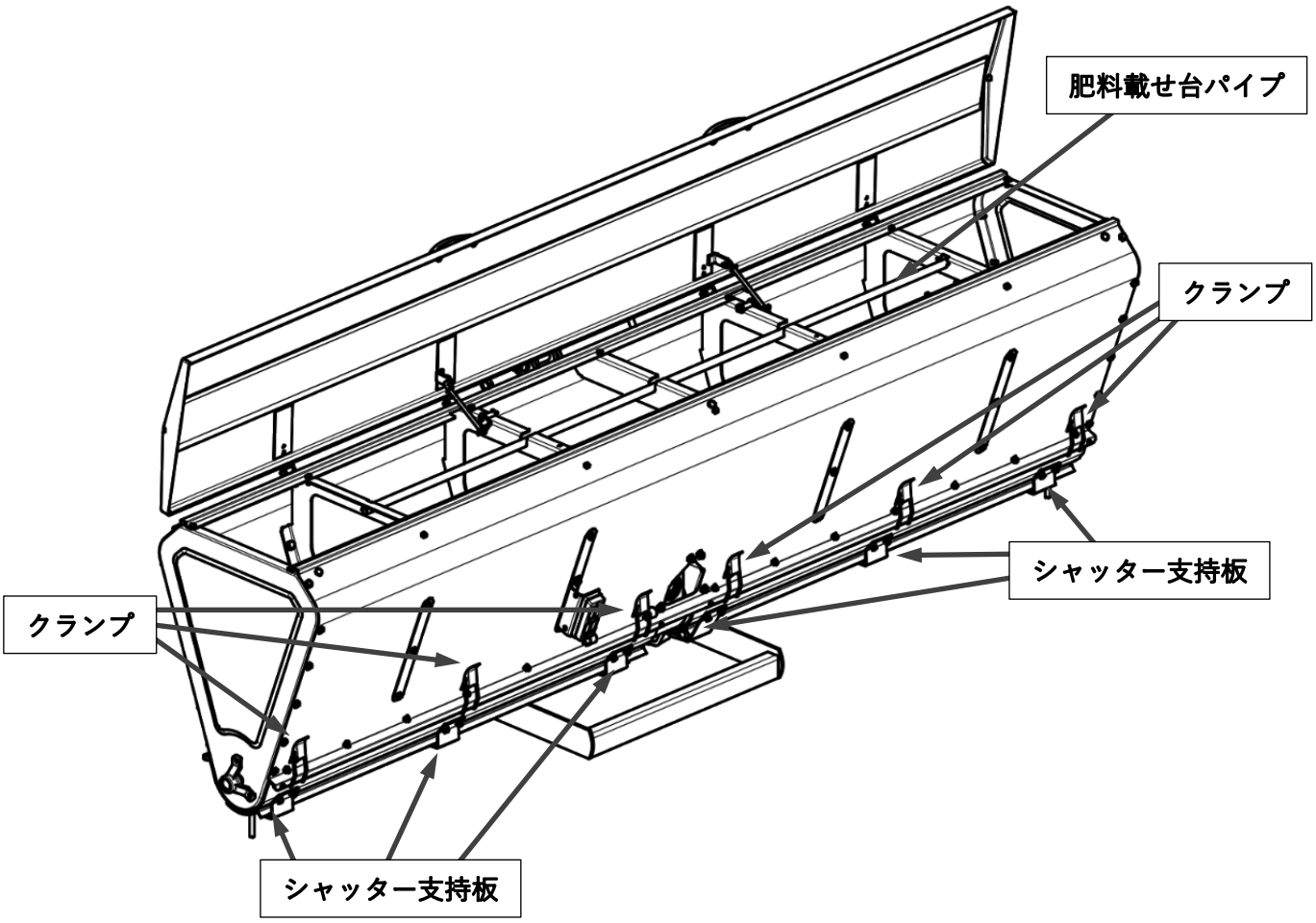
重要

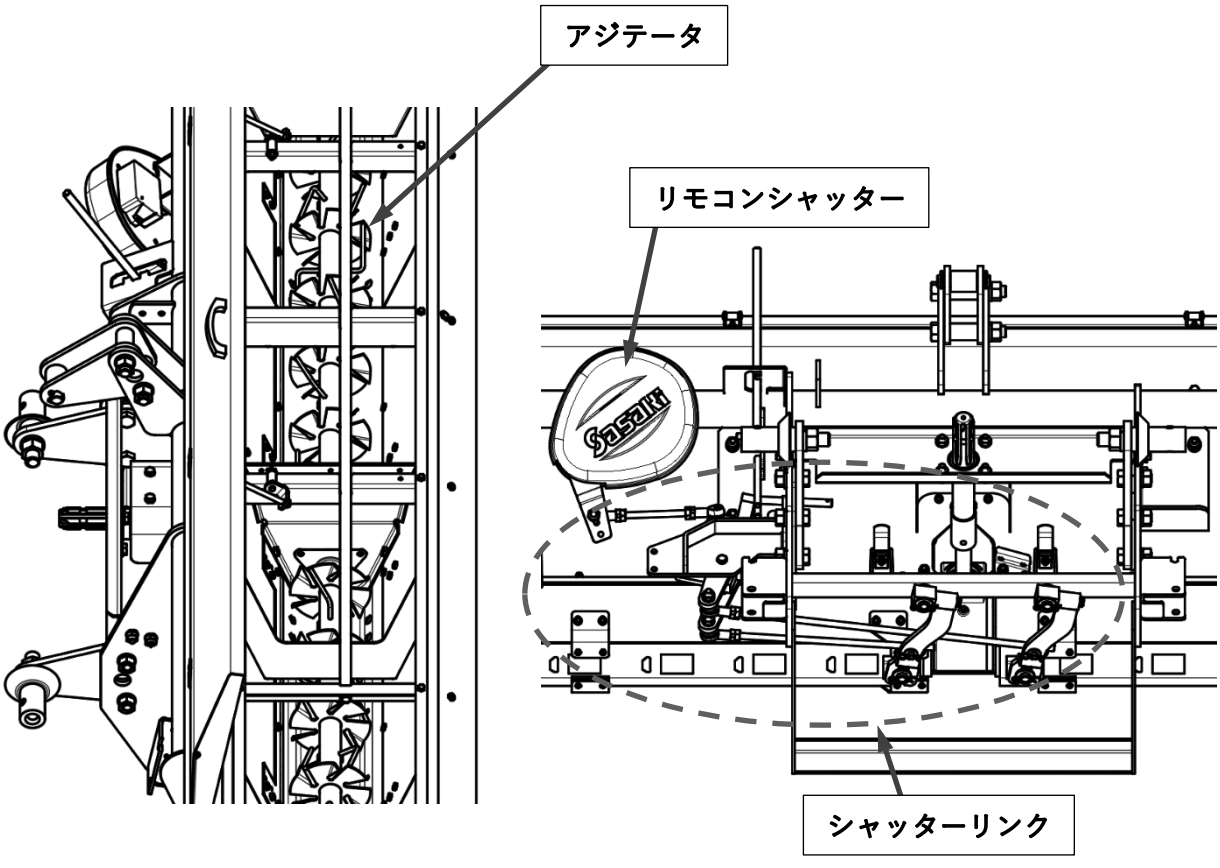
- 機械の改造は危険ですので改造しないでください。改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合は、メーカー保証の対象外になりますので注意してください。
- 電動リモコンシャッターの「リモコンシャッター本体」「制御ボックス」「リモコン」「配線類」は分解及び改造しないでください。危険でありまた、メーカー保証の対象外になりますので注意してください。

各部の名称


フタ
後退灯
タンク
シャッターR
シャッターリンク
ミッション
軸受
ソコイタ
シャッターL
スタンド


散布切替レバー
トップブラケット
フレーム
リモコンシャッター
ロワリンクブラケット
入力軸


肥料載せ台パイプ
クランプ
クランプ
シャッター支持板
シャッター支持板


アジテータ
リモコンシャッター
シャッターリンク

組立方法

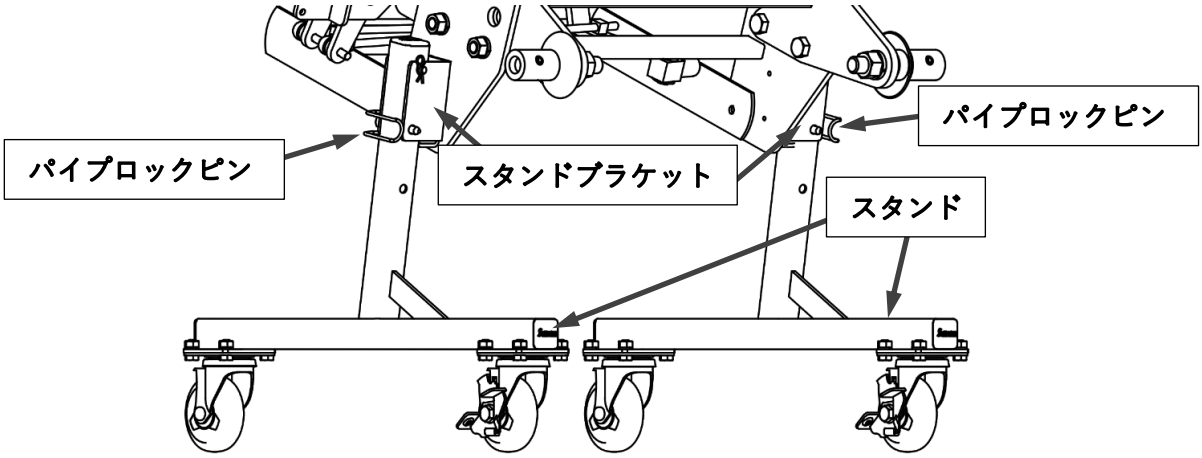
本機は、ほとんど組み上がった状態で、梱包枠に固定され出荷されています。
本機、スタンド及びその他付属品類を固定している番線等を取り除いてください。
梱包枠から本機を外し、スタンドを取り付けてください。
トラクタの油圧昇降装置等で本機を吊り上げ、スタンドを所定の位置に装着してください。

⚠ 警告

●組立場所は平坦で十分な広さがあり、地盤がしっかりした場所で行ってください。
守らないと作業機が動いて死傷事故を起こすおそれがあります。
●吊り上げた機械の下にもぐったり、足を入れたりしないでください。落下して死傷事故を起こすおそれがあります。近寄る時は、落下の危険を考慮して逃げ場所を確保してください。
●梱包を解体するときは、手・足・顔等をケガしないように注意してください。
●２人以上で作業する時は、お互いに合図をし、確認しあって作業してください。
【守らないと】
死傷事故を起こすおそれがあります。

◎スタンドの装着方法

1. 梱包枠から本機を外したら、下図のようにスタンドブラケットにスタンドを取り付けてください。
（取り付けたらパイプロックピンで確実に固定してください。）



2. スタンド装着後、トラクタから着脱できない場合は、スタンドの取り付けピンの穴位置を変えて脱着がスムーズにできることを確認してください。

3. 着脱姿勢について
本機を少し持ち上げ、左右水平になるようにトラクタ右側のリフトロッド長さを調節してください。

トラクタへの装着方法

◎装着前の準備

⚠ 警告

●作業中にボルト・ナット・ピン類が外れますと、作業機の破損ばかりかトラクタの破損、人身事故につながるおそれがあります。

●適応馬力の範囲内で使用してください。適応範囲内のトラクタでも発進時、登坂時、トラクタの前輪が浮き上がる場合は、必ずフロントウエイトを取り付けてください。

●作業機の着脱は、平坦で十分な広さがあり地盤のしっかりした場所で行ってください。

【守らないと】

作業機が動いて死傷事故を起こすおそれがあります。

●作業機の下に潜ったり、足を入れたりしないでください。また、作業機とトラクタの間に入らないでください。

【守らないと】

挟まれて死傷するおそれがあります。

(1)　ボルト・ナットの緩みやピン類の脱落がないか確認してください。

(2)　作業機を装着すると機体の長さ、幅が大きくなり重量バランスが変わりますので、必要に応じてフロントウエイトを取り付けてください。

(3)　開梱後、本機をオートヒッチにてトラクタへ装着する際、トップピンの位置が低くすくい上げられない場合は、スタンドパイプの取り付けボルトの穴位置を変え、トップピンの位置を高くしてください。

(4)　標準 3 点リンク直装の場合は、ユニバーサルジョイントの長さの確認をしてください。ユニバーサルジョイントの長さは、必ず適正長さの範囲内で使用してください。短すぎるとユニバーサルジョイントが抜けて思わぬ事故につながり、長すぎると機械を破損してしまいます。短い場合は交換し、長い場合は切断し使用してください。

（ユニバーサルジョイントの切断方法 P.15）

◎ユニバーサルジョイントの準備

トラクタによってユニバーサルジョイント（以下「ジョイント」）の長さが合わない場合があります。長すぎるジョイントを装着すると、トラクタの　PTO 軸と作業機の入力軸を破損させます。
また、短すぎるとかみ合いが不足し、チューブが破損したり、ジョイントが抜けたりして思わぬ事故につながります。

付属のジョイントが長い場合がありますので、切断方法に従い切断してください。

⚠ 危険

●ジョイントの取り付け時は必ずエンジンを切ってＰＴＯ回転を停止してください。

【守らないと】

巻込まれ、死傷事故を起こします

⚠ 警告

●二人以上で作業するときは、お互いに合図をし、確認し合って作業してください。
特にトラクタのエンジンをかける場合や、エンジンが作動している間は十分に注意してください。

【守らないと】

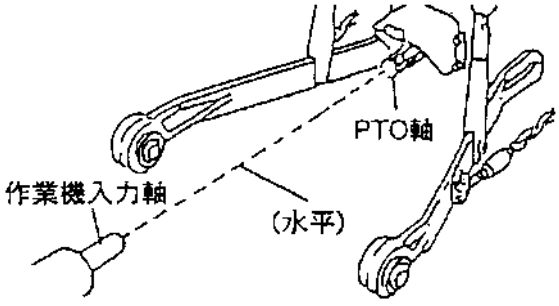
死傷事故を起こすおそれがあります。

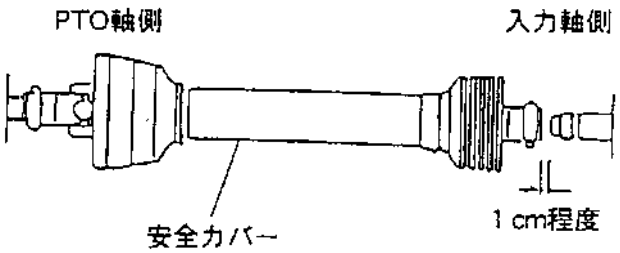
⚠ 注意

装着時はトラクタの PTO 変速を中立にしてください。

①適正長さの確認

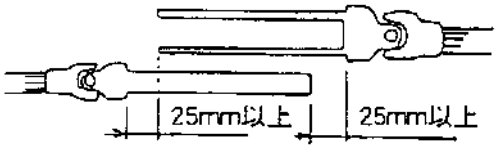
トラクタへ装着された状態で、トラクタＰＴＯ軸と作業機の入力軸が水平で一直線上にある時に、ジョイントが一番短くなります。この時に、作業機側入力軸の端面との隙間が１ｃｍ程度あればそのまま使用できます。



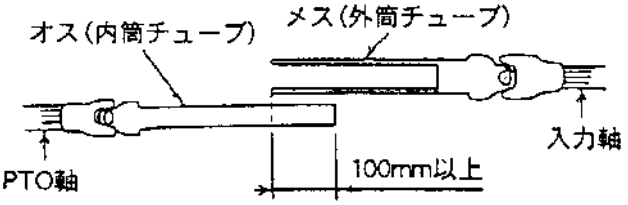


また､ジョイントのオス・メスを外してそれぞれＰＴＯ軸と入力軸を取り付け、水平で一直線上にある時（最縮時）に下図のスキマが２５ｍｍ以上あり、作業機を上下させてジョイントが１番伸びた時（最伸時）にオス・メスの重なりが１００ｍｍ以上あると適性長さの範囲です。

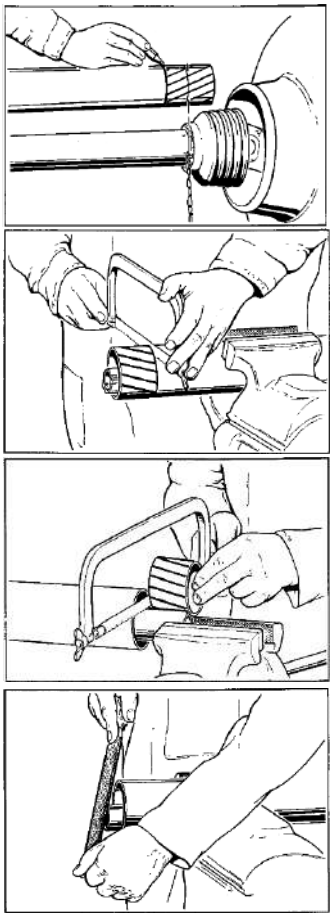
最縮時



最伸時



②切断方法



1． ジョイントのオス・メスを外してトラクタと作業機の最短の作業位置に合わせ、相手側の安全カバーの筒の端から、２５ｍｍスキマがあく位置にオス・メスの安全カバーにそれぞれマークをつけてください。

2． オス・メスの安全カバーにマークをした長さだけ安全カバーを切断してください

3． オス･メスの内外筒チューブを、安全カバーを切断した部分と同じ長さだけ切断してください。

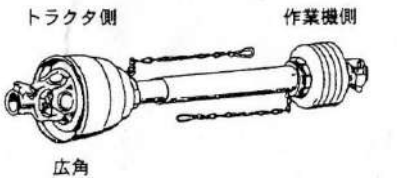
4． 切断後は切り口にヤスリをかけ、バリを除きスムーズにスライドできるようにしてください。

③装着方法

本機がトラクタに装着された後、エンジンを停止し、ユニバーサルジョイントを装着してください。ジョイントのノックピンを押しながら広角側をトラクタ PTO 軸に挿入、PTO 軸の溝にノックピンをはめ込み抜け止めします。次に、作業機側入力軸の溝にノックピンをはめ込み抜け止めします。



トラクタ側、作業機側ともにジョイントのノックピンが正確に軸溝にはまっているか、ノックピンの頭が１ｃｍ以上出ていることを確認してください。



広角側を作業機側に取り付けるとジョイントが破損するおそれがあります。

⚠ 危険

ジョイントの取り付け時は必ずエンジンを切ってＰＴＯ回転を停止してください。

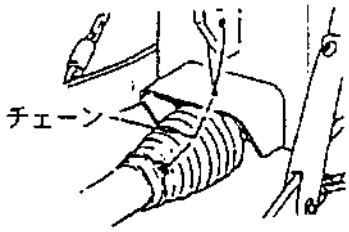
【守らないと】

巻込まれたり、３点リンクが動作し挟まれ、死傷事故を起こします。

⚠ 注意

装着時はトラクタの PTO 変速を中立にしてください。

ユニバーサルジョイントのチェーンをトラクタと作業機に取り付け、安全カバーの回り止めをしてください。



◎JIS 標準オートヒッチの場合

お買い上げいただいた製品が、JIS 標準オートヒッチ規格（0S・3S・4S）の場合は、標準 3 点リンクに標準オートヒッチを付けて装着してください。その際は、標準 3 点リンク用の長いトップリンクをご使用の上、リフトロッドの位置はロワリンクの作業機用の穴位置を使用してください。

1. 装着方法

⚠ 危険

●ジョイントの取り付け時は必ずエンジンを切ってＰＴＯ回転を停止してください。

【守らないと】

巻込まれたり、３点リンクが動作し挟まれ、死傷事故を起こします。

⚠ 警告

●作業するときは、平坦で固い場所で行ってください。２人で作業するときは、お互いに合図しあって作業してください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

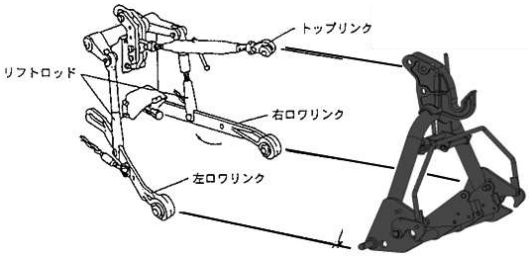
●周りに人や障害物がないことを確認してから作業してください。

重要

●作業機脱着時３点リンクの上げ、下げをゆっくり行ってください。急激な上げ、下げは危険です。また、破損する場合があります。

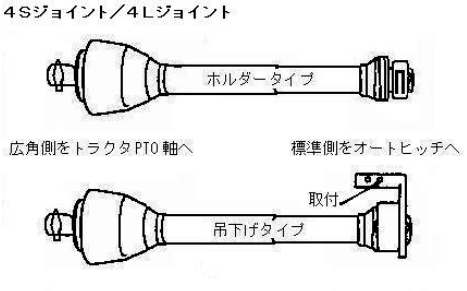
●ジョイントは確実にセットしてください。ノックピンが確実に入りロックしたことを確認してください。中途半端ですと回転中に抜けるおそれがあります。大変危険ですからノックピンの頭が１ｃｍ以上出ていることを確認してください。

1. 標準オートヒッチをトラクタの 3 点リンクに、左ロワリンク、右ロワリンク、トップリンクの順に取り付けてください。

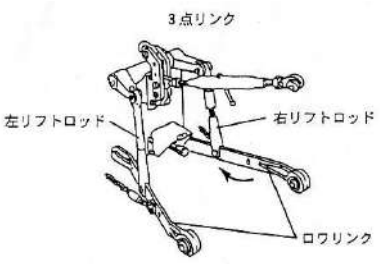


2. 4S の場合は、ユニバーサルジョイントを取り付けてください。広角側をトラクタの PTO 軸に取り付けてください。

3. 周りに人や動物、障害物がないことを確認してから、エンジンをかけトラクタの 3 点リンクを油圧で下げて、本機のマストに向かってトラクタを静かに後退させてください。



4. 標準オートヒッチのフック部で本機マストピンを下からすくい上げるよう油圧レバーをゆっくり操作し、静かに持ち上げると左右のロワリンクも自動的に装着されます。この時、本機が左右に傾いている場合はトラクタの右側のリフトロッドを伸ばし、本機の傾きに合わせてから装着してください。



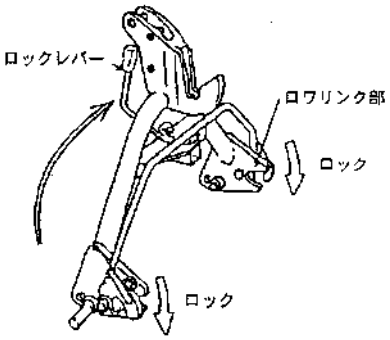
補 足

※フック部ですくえない場合や、ジョイントが入らない場合はやり直してください。

※フック部の下がり量が不足する場合は、リフトロッドの取り付け穴位置をロワリンク前側の穴に変えてください。

5. 標準オートヒッチのロックレバーを操作し、ロックを掛けてください。

6. 移動及び作業時には、エンジンを停止させてからスタンドを取り外してください。



2. 取り外し方

⚠ 危険

●ジョイントの取り付け時は必ずエンジンを切ってＰＴＯ回転を停止してください。

【守らないと】

巻込まれたり、３点リンクが動作し挟まれ、死傷事故を起こします。

⚠ 警告

●作業するときは、平坦で固い場所で行ってください。２人で作業するときは、お互いに合図しあって作業してください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

●周りに人や障害物がないことを確認してから作業してください。

1. エンジンを始動させ油圧レバーで 3 点リンクをゆっくり上げて、左右のスタンドを取り付けてください。

2. 3S の場合は、エンジンを停止し、ユニバーサルジョイントを外してください。

3. オートヒッチのロックレバーを下げ、ロックを解除してください。

4. トラクタのエンジンを始動させ、油圧レバーで 3 点リンクをゆっくり下げ、本機の左右のスタンドが地面についたら、さらに油圧レバーをゆっくり下げながらトラクタを前進させ、本機から離れてください。

◎JIS 特殊オートヒッチの場合

お買い上げいただいた製品が、JIS 特殊オートヒッチ規格の場合は、各トラクタのロータリーの取扱説明書の装着に関する事項をご覧ください。

特殊オートヒッチ規格には、A1 型・A2 型・B 型がありますが、それぞれトラクタの純正ロータリーと同様の手順で、本機の取り付け、取り外しができます。また、純正ロータリーに装着しているオートヒッチ、ジョイント及びトップリンクがそのまま使えます。

補 足

オートヒッチの使用方法は、ロータリーと同様ですのでトラクタ及びロータリーの取扱説明書をお読みください。

1. 装着方法

⚠ 警告

●作業するときは、平坦で固い場所で行ってください。２人で作業するときは、お互いに合図しあって作業してください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

●周りに人や障害物がないことを確認してから作業してください。

重要

- 周りに人や障害物がない事を確認してから作業してください。
- 作業機脱着時３点リンクの上げ、下げをゆっくり行ってください。急激な上げ、下げは危険です。また、破損する場合があります。

1. オートヒッチの装着が純正ロータリーと同じ位置にあることを確認してください。（ロワリンク、リフトロッド、トップリンク、ジョイント）
2. 周りに人や動物、障害物がないことを確認してから、エンジンをかけトラクタの３点リンクを油圧で下げて、本機のマストに向かってトラクタを静かに後退させてください。
3. オートヒッチのフック部で本機マストピンを下からすくい上げるよう油圧レバーをゆっくり操作し、静かに持ち上げると左右のロワリンクも自動的に装着されます。この時、本機が左右に傾いている場合はトラクタの右側のリフトロッドを伸ばし、本機の傾きに合わせてから装着してください。フック部ですくえない場合や、ジョイントが入らない場合は、やりなおしてください。
4. ロックレバーを操作し、ロックをしてください。
5. 移動及び作業時には、エンジンを停止させてからスタンドを取り外してください。

2.取り外し方

⚠ 警告

●作業するときは、平坦で固い場所で行ってください。２人で作業するときは、お互いに合図しあって作業してください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

●周りに人や障害物がないことを確認してから作業してください。

1. 左右のスタンドを取り付けてください。

2. オートヒッチロックを解除してください。

3. トラクタのエンジンを始動させ、油圧レバーで３点リンクをゆっくり下げ、本機の左右のスタンドが地面についたら、さらに油圧レバーをゆっくり下げながらトラクタを前進させ、本機から離れてください。

◎標準 3 点リンク(直装)仕様の場合

お買い上げいただいた製品が、標準 3 点リンク装着タイプの場合、次の手順で装着してください。

1. 装着方法

⚠ 危険

●ジョイントの取り付け時は必ずエンジンを切ってＰＴＯ回転を停止してください。

【守らないと】

巻込まれたり、３点リンクが動作し挟まれ、死傷事故を起こします。

⚠ 警告

●作業するときは、平坦で固い場所で行ってください。２人で作業するときは、お互いに合図しあって作業してください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

●周りに人や障害物がないことを確認してから作業してください。

重要

●作業機脱着時３点リンクの上げ、下げをゆっくり行ってください。急激な上げ、下げは危険です。また、破損する場合があります。

●ジョイントは確実にセットしてください。ノックピンが確実に入りロックしたことを確認してください。中途半端ですと回転中に抜けるおそれがあります。大変危険ですからノックピンの頭が１ｃｍ以上出ていることを確認してください。

1. 周りに人や動物、障害物がないことを確認してから、エンジンを始動させ油圧レバーを操作し、トラクタロワリンクを本機ロワリンクピンの高さに合わせてください。

2. 左トラクタロワリンクを本機ロワリンクピンにセットし、リンチピンで抜け止めをしてください。

3. 右トラクタロワリンクをレベルハンドルまたは、リフトシリンダを調整しながらセットし、リンチピンで抜け止めをしてください。

4. トップリンクの長さを調整しながらセットし、リンチピンで抜け止めをしてください。

5. ユニバーサルジョイントの広角側をトラクタ側になるよう装着してください。
   トラクタ側、作業機側ともにジョイントが正確に軸溝にはまっているか確認してください。ノックピンの頭が１ｃｍ以上出ていることを確認してください。
   ユニバーサルジョイントの長さはトラクタの機種により異なりますので、必ず適正な長さのものを装着してください。

6. ユニバーサルジョイントのチェーンをトラクタと作業機に取り付け、安全カバーの回り止めをしてください。

7. 移動及び作業時には、エンジンを停止させてからスタンドを取り外してください。

8. 本機を少し持ち上げ PTO 軸、ユニバーサルジョイント、入力軸がトラクタの中心線上になるように、チェックチェーンを左右均等に張ってください。
   その後、チェックチェーンのターンバックルを 0.5～1 回転戻し、ロックしてください。本機を少し持ち上げ PTO 軸、ユニバーサルジョイント、入力軸がトラクタの中心線上になるように、チェックチェーンを左右均等に張ってください。
   その後、チェックチェーンのターンバックルを 0.5～1 回転戻し、ロックしてください。

2. 取り外し方

⚠ 危険

●ジョイントの取り付け時は必ずエンジンを切ってＰＴＯ回転を停止してください。

【守らないと】

巻込まれたり、３点リンクが動作し挟まれ、死傷事故を起こします。

⚠ 警告

●作業するときは、平坦で固い場所で行ってください。２人で作業するときは、お互いに合図しあって作業してください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

●周りに人や障害物がないことを確認してから作業してください。

1. 左右のスタンドを取り付けてください。

2. トラクタのエンジンを始動させ、油圧レバーを操作し、本機の左右のスタンドが地面につくまで３点リンクをゆっくり下げてください。

3. スタンドのキャスターがすべて地面に着くまでトップリンクを調整してください。(場合によっては、右ロワリンクをレベリングハンドルまたは、リフトシリンダを調整してください。）トラクタから降りる時は、必ずエンジンを停止し駐車ブレーキをかけてください。

4. エンジンを停止し、ユニバーサルジョイントを外してください。
5. トップリンク、ロワリンクの順で外してください。

装着後の調整と準備

⚠ 警告

- 作業するときは、平坦で固い場所で行ってください。２人で作業するときは、お互いに合図しあって作業してください。思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 調整するときは、トラクタの駐車ブレーキをかけ、ＰＴＯを中立にし、必ずエンジンを停止してください。また、エンジンが始動できないようキーを抜いてください。
- 回転部が停止しているかを確認してから、調整作業を行ってください。
- 変形、破損などの異常を発見したら、速やかに修理を行ってください。

【守らないと】

死傷事故につながるおそれがあります。

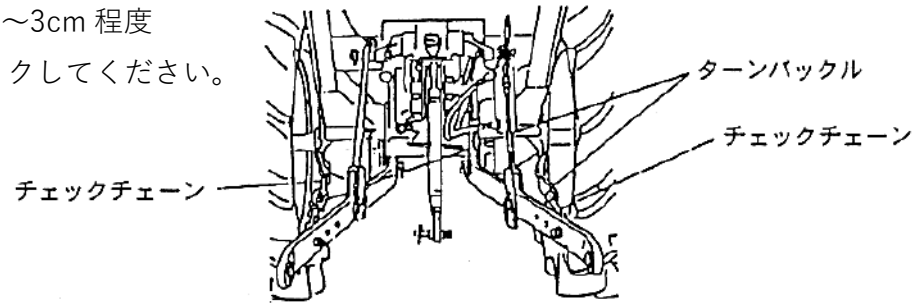
⚠ 注意

トラクタのエンジンをかける時は、回りに人がいないことを確認してから行ってください。

トラクタの取扱説明書をよく読み、本機をトラクタに装着した後、次の調整を行ってください。

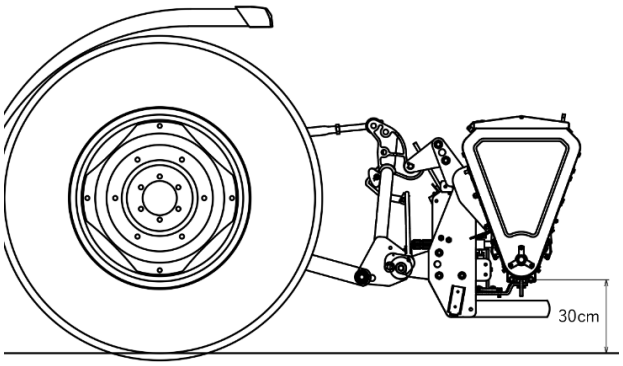
①　チェックチェーンの調整

本機を少し持ち上げ、PTO 軸、ジョイント及び入力軸がトラクタの中心線上になるよう、チェックチェーンを左右均等に張ってください。その後、左右のチェックチェーンのターンバックルを 0.5～1.0 回転程度戻し、左右に 2～3cm 程度
左右均等に振れるようにしてロックしてください。



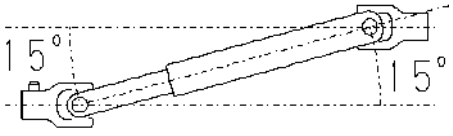
②　作業姿勢の調整

本機は下図のように、シャッターの高さが地面から３０cm で、タンク上部が地面に対し水平になるよう、トップリンクの長さを調整してください。



⚠ 注意

ユニバーサルジョイントの角度が１５°以上になると、作業中、振動や異音等の発生あるいは、本機の破損につながるため注意してください。

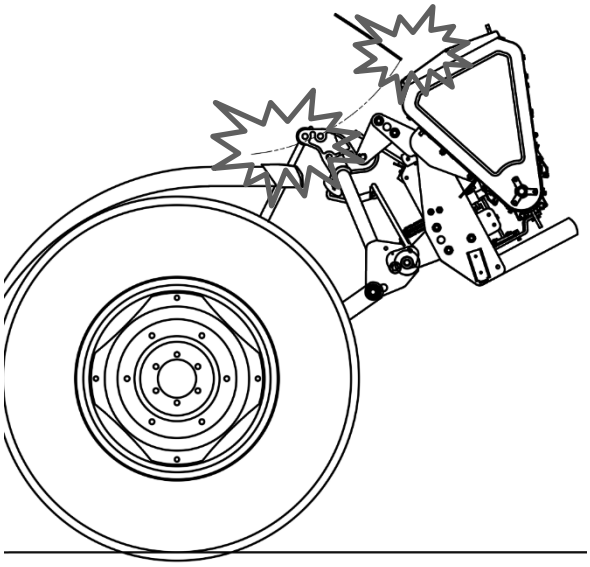


②　左右水平の調整

本機の左右がトラクタに対し水平になるよう、トラクタのリフトロッド、もしくは、リフトシリンダの長さで調整してください。また、自動水平制御装置があるトラクタでは制御をＯＮにして水平にしてください。

③　最上げ位置の規制

作業機を静かに持ち上げ、トラクタの一部に当たらないように、「上げ規制」が必要な場合があります。トラクタの取扱説明書に従い、上げ規制を行ってください。



④　異音のチェック

PTO を低速で回転させて、チェーンカバー内および動力伝達系統から異音がしていないことを確認してください。

⑤　フロントウエイトの装着

作業機を装着してからトラクタの前輪が浮き上がるような場合は、トラクタにフロントウエイトを装着して、前輪の浮き上がりを防止してください。

電動リモコンシャッターの取扱方法

⚠ 注意

Ⅰ．無線装置全般

- 無線装置は、日本国内の電波法に基づいて製作されております。日本国内でしか使用できません。
- リモコンと受信機は、分解、改造、異なった用途では使用しないでください。正常な動作及び安全を保障できません。
- リモコンと受信機を使用中に、煙が出たり、異臭がしたり、操作と異なる動作をした場合、変形・割れがある場合は、使用を中止し販売店へご連絡ください。
- リモコン及び受信機を金属で覆ったり遮ったり、また塗装したりしないでください。電波が届きにくくなります。
- 受信機はカバーで覆われています。カバーを外した状態での洗浄は行わないでください。故障の原因になります。

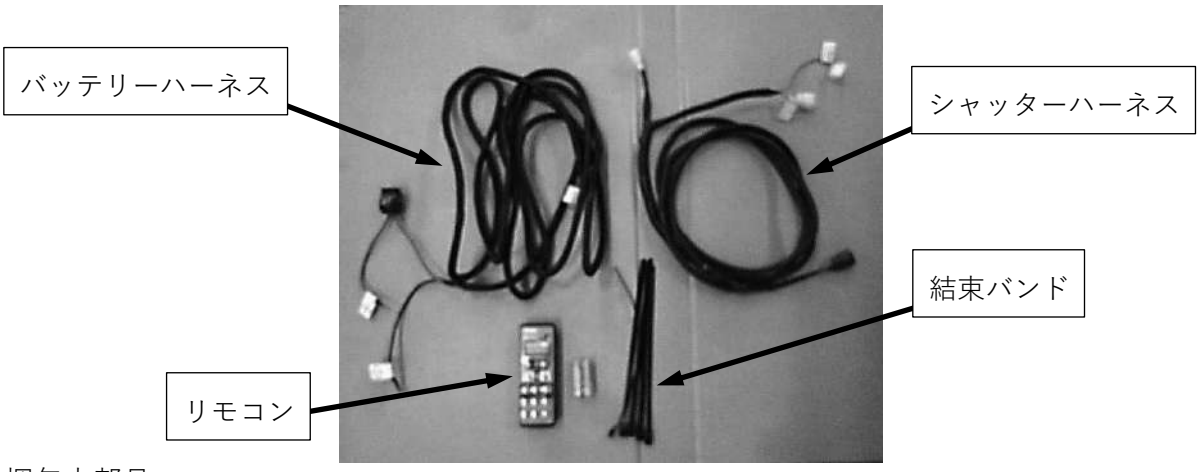
Ⅱ．リモコン

- リモコンをトラクタ内に放置しないでください。転がってペダルの下へ入り込むと、運転操作を妨げ危険です。
- リモコンは、子供の手の届かない場所へ保管してください。
- 精密部品ですので、落としたり、挟んだり、激しい振動を与えないでください。
- 樹脂部品のため、ガソリン、灯油、シンナーなどの溶剤へつけないでください。割れたり、溶けたりします。
- 水、洗浄機で洗ったりしないでください。水に落とした場合は、ただちに拾い乾いた布で拭き、よく乾かしてください。
- 磁気を帯びたキーホルダーつけたり、金属系のシールなどを貼付けないでください。電波が飛びにくくなることがあります。
- 長期間使用しない場合は、リモコンの電池を抜き、直射日光や高温になる場所、水のかかる場所を避けて、保管してください。電池の液漏れやリモコンの防水性が低下し、故障の原因になります。
- 直射日光の当たるトラクタのキャビン内は高温になるので、放置しないでください。リモコンの変形などの原因になり、防水性の低下や故障の原因になります。
- 電池の寿命は連続使用で約２０時間です。（アルカリ電池単三２本）ただし、使用頻度や環境条件によって、使用時間は変化します。安定した作業のために、電池残量表示を確認し、こまめに電池交換をお薦めします。
- 電源ボタンを押して、電池残量表示が少ない時や、電源ランプが点滅する場合は、電池が消耗していますので、電池を交換してください。

◎梱包品の確認と各部の名称と働き

重要

●リモコンは精密電子機器が入っていますので絶対に開けたりしないでください。



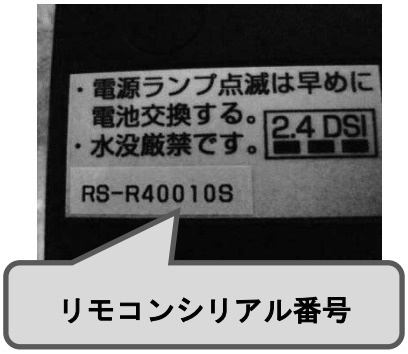
梱包内部品

リモコン	電動シャッターの開閉操作と施肥量設定をおこなうことができます。 単三電池２個付
シャッターハーネス	電動シャッターへ接続し電源を供給します。
バッテリーハーネス	トラクタバッテリーから電源を取り出します。
結束バンド	電源ハーネス等の配策に使用します。

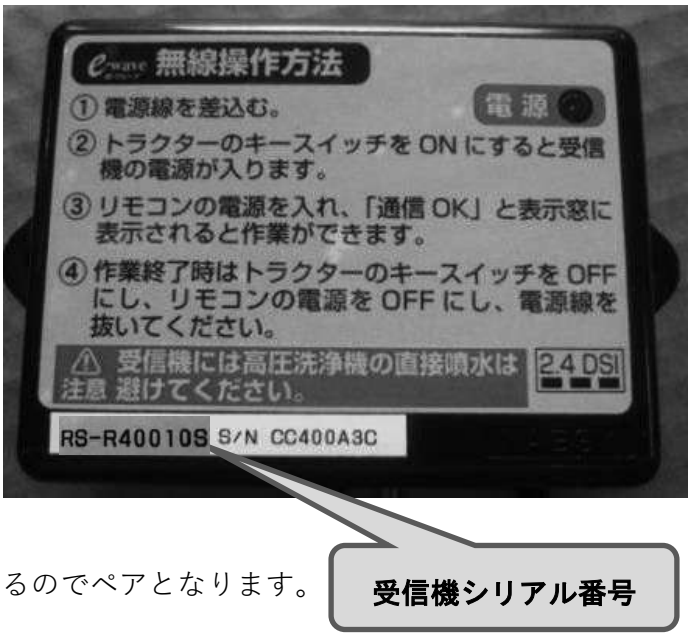
◎リモコンと受信機のペア確認

シリアルナンバー表記位置

●リモコンの裏側



●電動シャッター部受信機



互いに『**RS-R40010S**』と表記があるのでペアとなります。
違う番号のものでは動作しません。

◎取り付け接続方法

重要

●本製品の作動電源はバッテリーＤＣ１２Ｖです。その他の電源に接続すると破損します。

●バッテリー電圧が不足していると作動しない場合があります。充電はしっかりと行ってください。

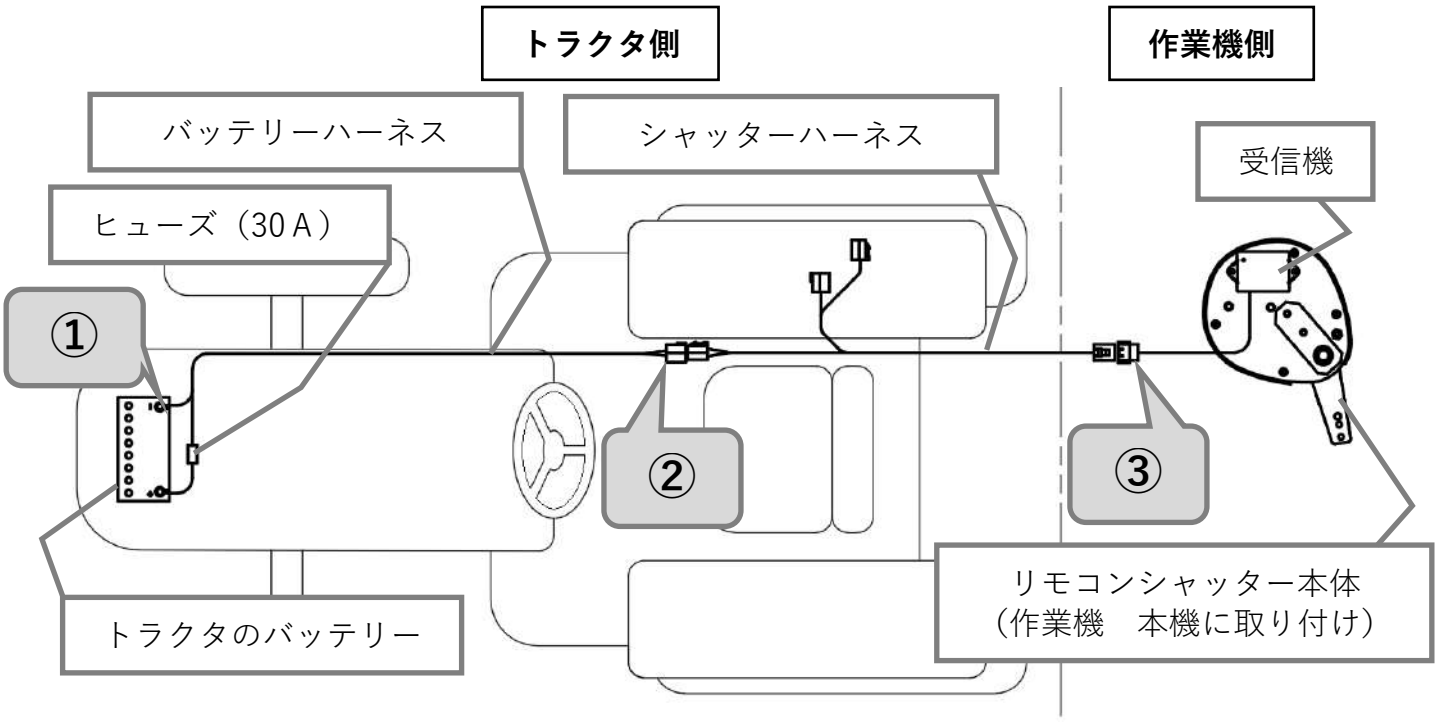
●バッテリーの＋と－を必ず確認してから接続してください。誤って接続すると電子部品の故障の原因になりますので注意してください。

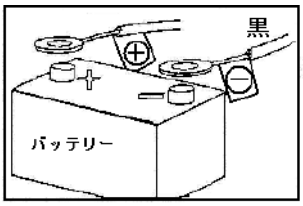
●本製品の所要電流は 10～20 アンペアです。

●コネクタの差し方は差し込める位置が限定されています、形状を良く見てカチッと音が鳴るまで差し込んでください。

１．接続方法

下図の番号の順に各コネクタを接続してください。



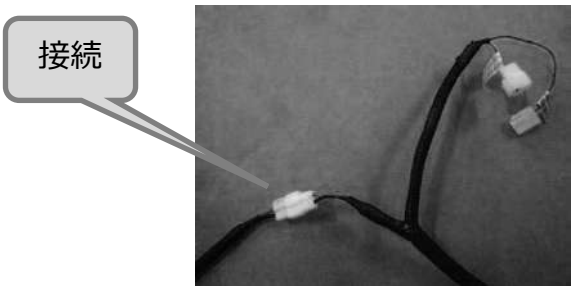


① バッテリー電源ハーネスとトラクタのバッテリーを接続してください。
（＋と表示されているコードを＋へ、－と表示されているコードを－へ
それぞれ接続してください。）

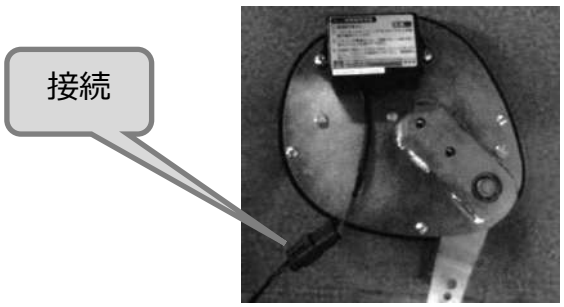
重要

●トラクタのバッテリー以外には接続しないでください。

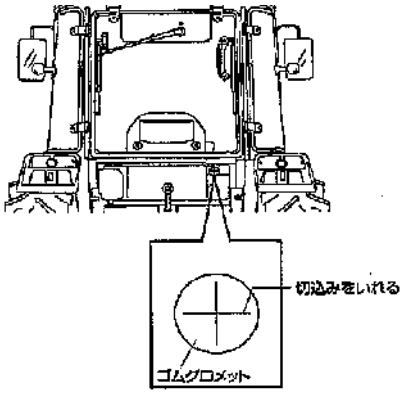
② バッテリー用電源ハーネスと電動シャッター用電源ハーネスを接続してください。



③ 電動シャッター用電源ハーネスと受信機を接続してください。



④ 電動シャッター用電源ハーネスをトラクタキャビンから出す場合、キャビン後ろのゴムグロメットにカッターナイフで切込みを入れ、ハーネスは必ずゴムグロメットを介して通してください。



重要

●ゴムグロメットを外して通すと、ハーネスに傷がつき思わぬ事故をおこすおそれがあります。

⑤ 配線接続が終了したら、付属のバンドで配線を固定してください。

◎電源の入れ方

1．リモコンに電池を入れる





重要

●濡れた手で行わないでください。基盤破損の原因になります。

●電池は、＋とーの極性を確かめてから入れてください。間違うと電源が入りません。

【電池交換について】

1． 電池は以下のことに気をつけて、使用してください。

●新しいものと古いものとの組合せをしない。

●種類の異なるものを入れない。

2． 液漏れ、破裂を起こすおそれがあり、故障やケガの原因になります。液漏れの液が体に付着したときは、きれいな水で洗い流してください。目に入った場合は、こすらずにきれいな水で洗い流したあと、すぐに医師へ相談し処置してください。

3． 濡れた手での交換作業は行わないでください。基盤破損の原因になります。

4． 電池の極性を間違えて装着しても故障はしませんが、電源が入りません。再度、確認し装着し直してください。

5． 電池フタを開けた場合は、ネジをしっかりと締めてください。緩んでいる状態ですと、防水効果が、損なわれます。

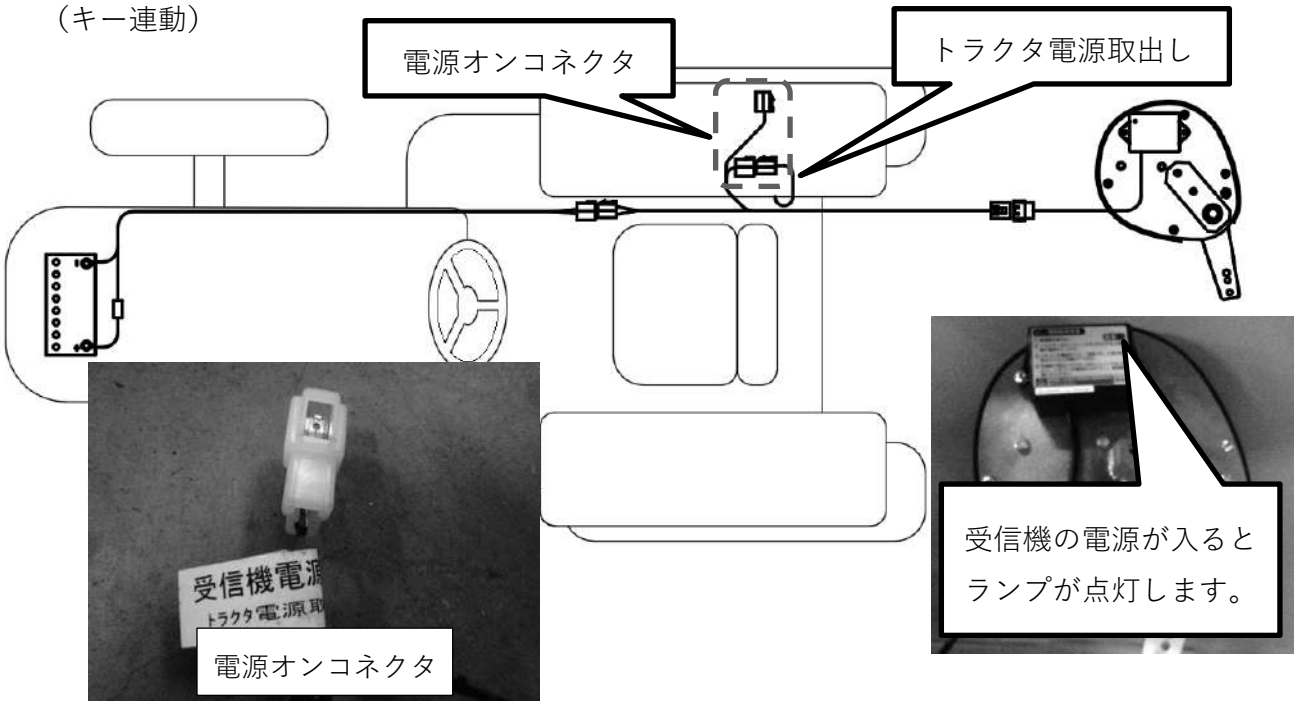
6． リモコンを水の中に落とした場合や、水がかかった場合は、電池フタを開け、内部を確認し、水が入っていたら拭きとってください。電池フタ、パッキンの破損、変形、キズがあった場合は、交換してください。水やホコリが入り故障の原因になります。

２．施肥機側リモコンシャッター本体の受信機に電源を入れる

リモコンと受信機は必ずペアの物を使用してください。別の受信機や別のリモコンだと動作しません。

（1）トラクタに電源取出しがある場合は、下図の電源オンコネクタを電源取出しへ差し込んでください。トラクタの電源オン、オフに連動して、受信機の電源をオン、オフすることができます。

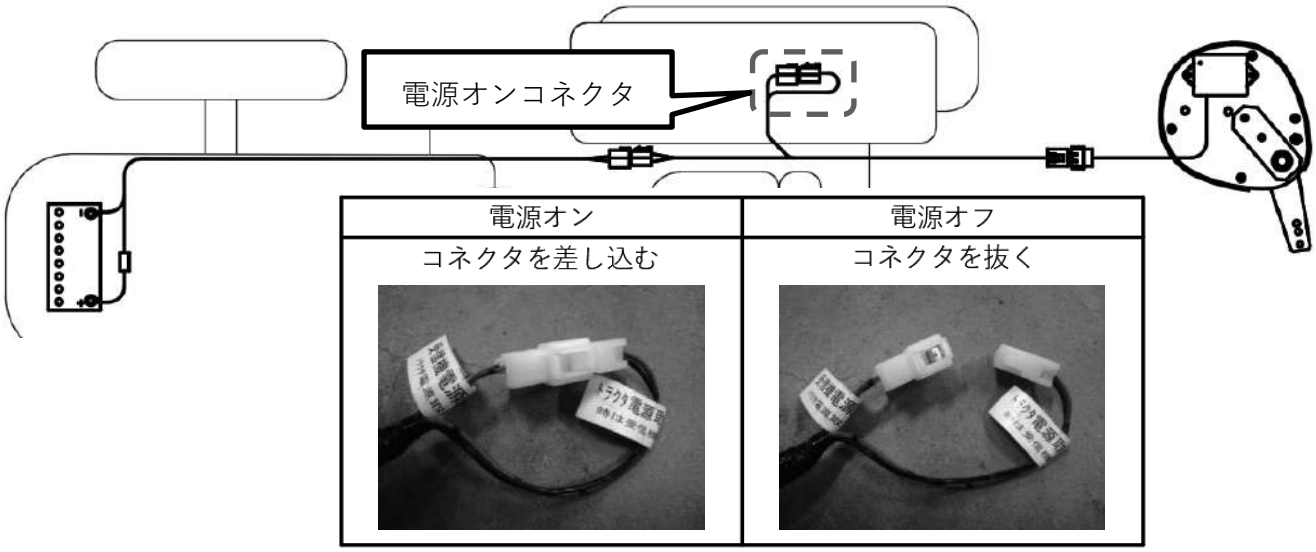
（キー連動）



（2）トラクタに電源取出しが無い場合は、下図の様に接続してください。

受信機電源のオン、オフはコネクタの抜き差しにより行います。

トラクタのオン、オフとは連動しません。



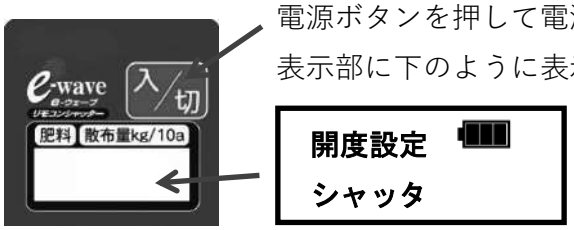
上記、いずれかの方法で受信機に電源を入れてください。

補 足

リモコンの電源をオンする前に、必ず受信機の電源をオンしてください。

受信機の電源がオフでリモコンの電源をオンすると **受信機ON?** の表示になります。

3．リモコンの電源を入れる



電源ボタンを押して電源を入れてください。(ON)
表示部に下のように表示されます。

もう一度押すとリモコンの電源が切れます。(OFF)

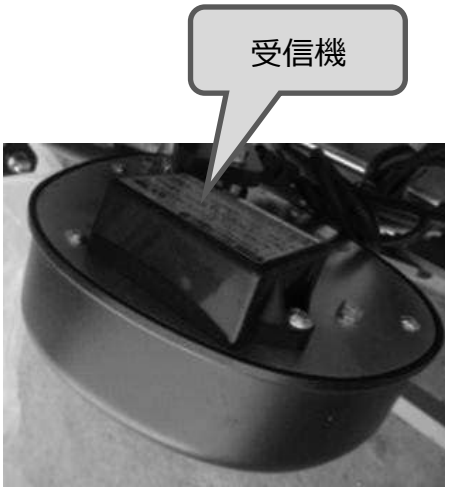
表示部に **受信機ON?** が表示される場合は、下表を参考に再度、電源を入れてください。

受信機ON? の表示が出た場合

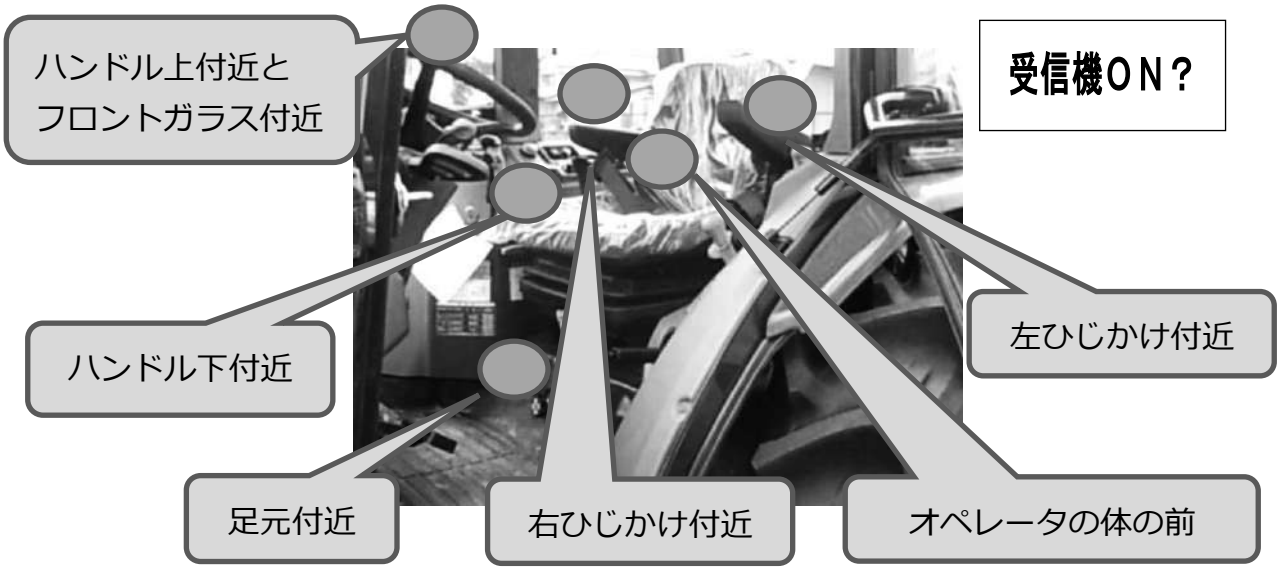
①受信機の電源が ON されていない。	②無線電波が届いていない。	③リモコンと受信機がペアになっていない。
・受信機電源を ON にしてからリモコンの電源を ON にする。	・リモコンを施肥機に向けて操作する。 ・受信機の電源を再度 ON にして、リモコンの電源も再度 ON にしてください。電波の良好なチャンネルに自動選局されます。	・ペアのリモコンを使用する。 ・リモコンを部品購入した場合は、ペアリング作業が必要です。購入先へ連絡してください。

リモコンの電源を入れる時、又は、リモコンを操作しシャッターの開閉作業を操作する時は下図のようにリモコンの電源ボタン側を施肥機の受信機に向け、リモコンと受信機の間に障害物が無いような位置で操作してください。





1）以下の場所では、電波通信が途絶え、リモコンの表示部が「受信機ＯＮ？」になる可能性がありますのでリモコン操作はしないでください。



2）以下の圃場では、外部の電波影響を受け電波通信が途絶え、リモコンの表示部が「受信機ＯＮ？」になる可能性がある可能性があります。

・携帯電話の電波塔付近。　・無線通信を行っている家、企業、学校等の建物付近。
・高圧線の入り組んでいる付近。　・電波を強く出している建物付近。

※「受信機ＯＮ？」が出る場合は受信機とリモコンの両方の電源をオフしてから、もう一度オンしてください。自動チャンネル選局機構が作動し外部電波影響の少ないチャンネルで通信を再開します。それでも「受信機ＯＮ？」が表示される場合はトラクタの後ろガラスを開け、できるだけリモコンを受信機に近づけて操作してください。

◎散布作業モードとモード切替方法

リモコンシャッターは、2 つの散布モードへ切替が可能です。
散布作業に応じてモードを選択してください。

○開度設定モード【出荷初期状態】

シャッター開き量の段数（開度）を設定し、シャッターの開閉を行います。
施肥機それぞれに散布量とシャッター開度を対応させた散布表が貼られていますのでシャッター設定し散布作業を行ってください。

○車速優先モード

・散布条件（「施肥機機種」「肥料種類」「散布量」「散布幅」「トラクタ速度」）をリモコンに設定し、より散布条件に合った作業を行います。
・このリモコンは 3 つの散布パターンを記憶、呼出できる「赤」「青」「白」ボタンがあります。肥料ごと、散布場所ごとに記憶しておくと便利に利用いただけます。

各散布作業モードへの切替方法

●車速優先モードへの切り替え方法

車速優先モードへの切替えは、「減」ボタンと「増」ボタンを押しながら、電源ボタンを押してください。(注：両手操作になります)　車速優先モードへ変更されます。



※次回からは、電源ボタンを押すだけで車速優先モードが継続されます。
設定状態は、リモコンの電源を入れた時、表示部に『車速優先』と表示されています。



●開度設定モードへの切り替え方法

開度設定モードへの切替えは、「止」ボタンと「出」ボタンを押しながら、電源ボタンを押してください。(注：両手操作になります)　開度設定モードへ変更されます。



※次回からは、電源ボタンを押すだけで開度設定モードが継続されます。
設定状態は、リモコンの電源を入れた時、表示部に『開度設定』と表示されています。



◎各散布作業モードの基本操作

1．開度設定モードの基本操作 【出荷初期状態】

1－1．リモコンの説明



電源ボタン：電源を入/切します。

表示部：操作に従った表示が出ます。

出ボタン：シャッターを開きます。

止ボタン：シャッターを閉じます。

増ボタン：開度設定を増加させます。

減ボタン：開度設定を減少させます。

1－2．リモコン操作方法と表示

① 電源ボタンを押す。	② 「増」「減」ボタンを押して設定したいシャッター開度に合わせる。	③ 出ボタンを押すと、シャッターが開く。	④ 止ボタンを押すとシャッターが閉じる。
開度設定 シャッタ は電池残量です。 の時は電池交換してください。	開度 05 停止 ・増を押すと開度が1ずつ増えます。 ・減を押すと開度が1ずつ減ります。 シャッター開度調整 **0～20 段階**	開度 05 散布 散布に変わりシャッターが開きます。	開度 06 停止 現在の開度を記憶します。
シャッター開です 止押す シャッターが開いていると表示します、止ボタンを押すと閉じます。		散布中でも増、減を押すとシャッター開度を変えることができます。 開度 06 散布	

※シャッター開度の設定は、P.41「散布量の設定」を参照してください。

２．車速優先モードの基本操作

２－１．使用前の準備

１．お使いの施肥機の機種をリモコンに登録させますので、あらかじめ型式確認してください。

２．リモコン表面のラベルを剥がしてください。



ここのラベルを
剥がす。

※剥がしたラベル
を保管する。



散布設定のできるボタンが
現れます。

２－２．リモコンの説明



電源ボタン：電源を入/切りします。

表示部：操作に従った表示が出ます

止ボタン：シャッターを閉じます。

出ボタン：シャッターを開きます。

減ボタン：設定車速と設定数値を減少させます。

増ボタン：設定車速と設定数値を増加させます。

設定呼出ボタン：
「赤」「青」「白」の各ボタンそれぞれに施肥条件を記憶
又は、記憶した施肥条件を呼出します

設定ボタン：各設定項目を呼出します。

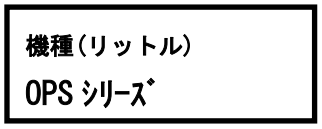
設定ボタンの設定項目

肥料	散布する肥料の種類を呼出し設定します。
散布量	10 アール当たりの散布量を設定します。
散布幅	散布幅の設定をします。
機種	施肥機の機種を呼出、設定します。
作業モード切替	車速優先⇔掃除モードの切替をします。

※左/右切替ボタンは、本機では使用できません。

2－3．車速優先モードの初期設定

施肥機の機種を登録する。

① 初期画面。	② 機種ボタンを押す。	③「増」「減」ボタンを押して **OPS ｼﾘｰｽﾞ** に合わせる。	④ 機種ボタンをもう一度押す。
			
数字はホッパーリットル数を表しています。 初期設定は、 CF200,300,CFA500 です。	現在の記憶されている機種が表示されます。	押す毎に 1 機種ずつ表示が変わります。 **OPS ｼﾘｰｽﾞ** に合わせてください。 設定機種は 11 種類あります。 「設定機種一覧」を参照してください。	機種が登録され、初期画面に戻ります。 登録は初回行うと記憶しています、次回からは登録不要です。

○設定機種一覧

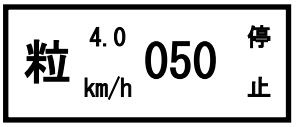
No.	表示部	対象機種	施肥機種類
1	CF200,300, CFA500	CF203,303,204,304 CFA503,504	ブロードキャスター（フリッカータイプ）
2	CF500,750,1000	CF503,753,1003 504,754,1004	ブロードキャスター（フリッカータイプ）
3	CSA500	CSA503,504	ブロードキャスター（スピンナータイプ）
4	CS500,750,1000	CS503,753,1003 504,754,1004	ブロードキャスター（スピンナータイプ）
5	CM200,300	CM203,303,204,304	有機ブロードキャスター
6	RMS300	RMS304	有機ミキシングソワー
7	ML シリーズ	ML156,186,216,247 ML157,187,217,247	ライムソワー
8	CM450,600	CM451,601,454,604	有機ブロードキャスター
9	SRT シリーズ	SRT850	ブロードキャスター（スピンナータイプ）
10	SRE シリーズ	SRE650,850	ブロードキャスター（スピンナータイプ）
11	OPS シリーズ	OPS187,217,247	有機ペレット散布機

２－４．リモコン操作方法と表示

２－４―１．散布作業

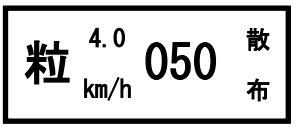
<table>
<tr><td>①電源ボタンを押すと散布モードと設定機種が表示され、散布条件表示に切り替わります。</td><td>② 前回散布した散布パターンが最初に呼出され表示されます。設定呼出の「赤」「青」「白」ボタンを押して散布条件を呼出すことができます。</td><td>③ 出ボタンを押すと、シャッターが開きます。</td><td>④ 「増」「減」ボタンを押すと設定速度が変わります</td></tr>
<tr><td>

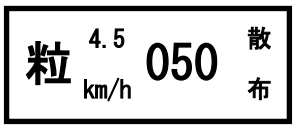

は電池残量です。

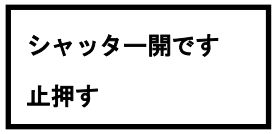
の時は電池交換してください。</td><td>初期表示は、「赤」ボタンの設定値が表示されます。


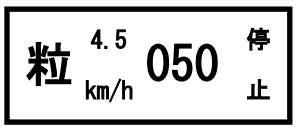
「赤」ボタン初期値
車速：4.0km/h
肥料：粒
散布量：50kg/10a

「青」ボタン初期値
車速：4.0km/h
肥料：砂
散布量：100kg/10a

「白」ボタン初期値
車速：4.0km/h
肥料：粉
散布量：100kg/10a</td><td>

・散布作業に変わります。
・設定した散布条件でトラクタ車速
4.0km/h で走行した場合のシャッター開度が選択され開きます。
トラクタの車速を
4.0km/h で散布作業を行ってください。</td><td>

0.1km/h ずつ増減します、設定した作業速度と実際の作業速度にズレがある場合は変更してください。
速度設定範囲は
1.0～9.9km/h</td></tr>
<tr><td>

シャッターが開いていると表示します、止ボタンを押すと閉じます。</td><td></td><td></td><td>⑤ 止ボタンを押すとシャッターが閉じる。


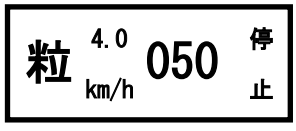
作業中、設定速度を変更した場合は、変更後の速度を記憶し、初期画面に戻ります。</td></tr>
</table>

２－４－２．散布パターン設定変更と記憶

以下は「赤」ボタンに対しての設定変更と記憶の操作方法です。

「青」「白」に対しては呼出と記憶の時のボタン操作がそれぞれのボタン操作に変わります。

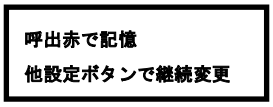
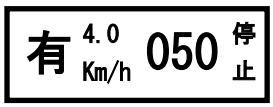
【肥料種類を変更したい場合】

<table>
<tr><td>①シャッター停止状態の時
赤ボタンを押す。</td><td>②肥料ボタンを押す。</td><td>③「増」「減」ボタンを押して設定したい肥料の種類を表示させる。</td></tr>
<tr><td>

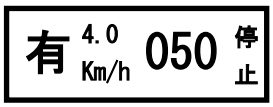
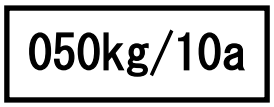
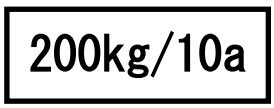
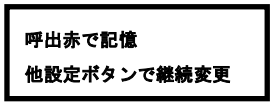
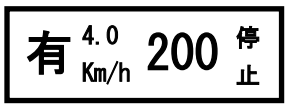
停止表示はシャッターが閉じています。(初期設定値)</td><td>

現在記憶している肥料の種類が表示される。</td><td>

肥料種類は
・粒（化成）
・砂（ヨウリン）
・粉（消石灰）
・有機ペレット
※有機は有機肥料の散布に対応した機種を設定した時に表示されます。</td></tr>
</table>

④もう一度、肥料ボタンを押す。	⑤赤ボタンを押してください。	⑥もう一度、赤ボタンを押してください。
		
一旦記憶され、上記表示になります。 他設定の変更を継続する場合は、設定変更したいボタンを押してください。	有機ペレットの設定が完了します。	赤ボタンに設定記憶され、 初期画面に戻ります。

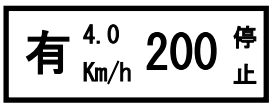
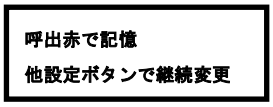
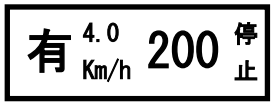
【散布量を変更したい場合】

①シャッター停止状態の時に赤ボタンを押す。	②散布量ボタンを押す。	③「増」「減」ボタンを押して設定したい散布幅を表示させる。
		
停止表示はシャッターが閉じています。	現在記憶している散布量 50kg/10a が表示される。	1kg/10a ずつ増減します。 散布量設定範囲は ・粒；10～200 kg/10a ・砂；10～300 kg/10a ・粉；10～250 kg/10a ・有機；10～500 kg/10a ※有機は有機肥料の散布に対応した機種を設定した時に表示されます。
④もう一度、散布量ボタンを押す。	⑤赤ボタンを押してください。	⑥もう一度、赤ボタンを押してください。
		
一旦記憶され、上記表示になります。 他設定の変更を継続する場合は、設定変更したいボタンを押してください。	散布量 200kg/10a の設定が完了します。	赤ボタンに設定記憶され、 初期画面に戻ります。

【散布幅を変更したい場合】

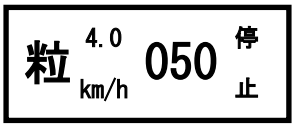
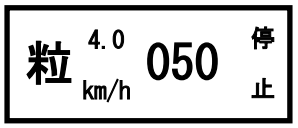
※推奨散布幅が初期設定されています。

※OPS/ML シリーズは、散布幅固定の為選択不可が表示されます。

①シャッター停止状態の時に赤ボタンを押す。	②散布幅ボタンを押す。	③もう一度、散布幅ボタンを押す。
 停止表示はシャッターが閉じています。	※OPS/ML シリーズ ④へ 	 一旦記憶され、上記表示になります。 他設定の変更を継続する場合は、設定変更したいボタンを押してください。
④赤ボタンを押してください。	⑤もう一度、赤ボタンを押してください。	
 赤ボタンを押してください。	 赤ボタンに設定記憶され、 初期画面に戻ります。	

3－3．作業モード切替、掃除モード

シャッターを掃除する場合や残った肥料を出す場合にシャッターを全開、全閉させるモードです。

①シャッター停止状態の時に	②作業モード切替ボタンを押す。	③「出」「止」ボタンを押す。	④作業モード切替ボタンを押す
 ・停止はシャッターが閉じています。	 シャッターが閉じている時に表示されます。	出ボタンを押すとシャッターが全開まで開きます。  止ボタンを押すと閉じます。 	 初期画面に戻ります。

作業前の点検

⚠ 警告

- 点検するときは、平坦で固い場所で行ってください。２人で作業するときは、お互いに合図しあって作業してください。思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 点検するときは、トラクタの駐車ブレーキをかけ、ＰＴＯを中立にし、必ずエンジンを停止してください。また、エンジンが始動できないようキーを抜いてください。
- 本機が下がることを防止するため、トラクタ３点リンクの油圧ストップバルブを閉めてください。さらに本機の下へジャッキスタンド入れ安全を確保してください。
- 回転部が停止しているかを確認してから、点検作業を行ってください。
- 変形、破損などの異常を発見したら、速やかに修理を行ってください。

【守らないと】

死傷事故につながるおそれがあります。

- ハーネスなど電装品に、被覆の剥がれなど作業前に点検してください。

【守らないと】

ショートして火災事故を引き起こすおそれがあります。

- 保守、点検、調整で外したカバー類は、必ず取付けしてください。

【守らないと】

機械に巻き込まれて、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 注意

- 点検、整備に必要な工具類は、きちんと管理し、目的に合ったものを正しく使用してください。
- 点検、整備には手袋、メガネを着用し、手、目の保護をしてください。
- トラクタのエンジンをかける時は、回りに人がいないことを確認してから行ってください。

必ず、作業前に始業点検を行ってください。

① 作業前にボルト、ナット、ピン類のゆるみ、脱落がないことを確認してください。

② ミッションの給油、注油の点検、および、オイル漏れがないか確認してください。

③ リモコンシャッターに電源コネクタを接続して、ランプが付くか確認してください。ランプが付かない場合はヒューズを確認してください。切れている場合は交換してください。（ブレードヒューズ３０Ａ；メイン電源保護ヒューズ）

④ シャッター開閉の動作確認

シャッター開度が全閉の時に、シャッターが完全に閉じているかを確認してください。

また、開度を全開にした時、完全に開いていることを確認してください。

シャッターの開閉にズレがある場合は、P.49 シャッターの開度調整の手順で開度調整をおこなってください。

⑤ PTO を低速で回転させて、チェーンカバー内および動力伝達系統から異音がしていないことを確認してください。

移動、圃場の出入り

⚠ 警告

- 本機を装着し、肥料をタンクに投入すると前後のバランスが大きく変化します。発進時、登坂時にトラクタ前部が浮き上がる場合は、転倒などの事故を起こすおそれがありますので、フロントウエイトを装着してください。
- 作業中以外は PTO を切ってください。
- 作業中は人を近づけないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。特に子供には注意してください。
- 前進で圃場から出る時にトラクタ前部が浮き上がる場合、転倒事故につながります。その場合は無理をせずにバックで出て、その後フロントウエイトを装着して作業してください。

○移動時の注意事項

・本機を装着し、肥料をタンクに投入すると前後バランスが大きく変わりますので、周りに注意をして走行してください。
・肥料の投入は、本機をトラクタへ装着してから行ってください。
・散布する肥料は、散布する圃場でタンクに入れてください。
・肥料をタンクに入れて長時間移動走行すると、タンク内の肥料が固まり散布できなくなります。
・移動走行中、シャッターを閉じたまま PTO を長時間回転させると、肥料がタンク内で固まり散布できなくなったり、故障の原因になったりします。絶対に行なわないでください。
・急発進、急旋回、急停止はバランスを崩して転倒する原因になります。絶対にしないでください。
・圃場への出入り、路肩走行には十分気を付けてください。
・運転者が運転席を離れる時は、駐車ブレーキをかけ、トラクタのエンジンを停止してください。
・補助作業者がいる場合は、補助作業者の位置に十分注意してください。機械の側に近づけないように注意してください。また、散布作業中には機械に近づかないように補助作業者に教えてください。
・作業者以外の人を近づけないでください。

⚠ 注意

圃場の凹凸によって本機の揺れが大きくなる場合がありますので、作業位置を下げ過ぎないようにしてください。

作業方法

◎散布作業の注意事項

（1） 付近に人、家畜がいない事を確認してから作業してください。

（2） **作業速度は 8km/h 以内、PTO 回転数は 540rpm** で作業してください。

（3） 作業中、異音等の原因を点検したり、注油したりする場合は、必ずエンジンを止めてから処置してください。

（4） 肥料をタンクに入れ、散布しない状態で長時間移動走行すると、タンク内で肥料が固まり散布できなくなります。散布する肥料は、散布する圃場でタンクに入れてください。

（5） シャッターを閉じたまま PTO を長時間回転させると、肥料がタンク内で固まり散布できなくなったり、故障の原因になったりします。絶対に行なわないでください。

（6） キャビンのないトラクタでの散布作業は、肥料が飛散し、目や呼吸器に入るおそれがありますので、必ず保護メガネと保護マスクを装着してください。

◎肥料について

本機は、粉状(石灰等)・大粒状(化成等。粒径 3mm 程度推奨)・小粒状(ようりん等)・ペレット形状(円筒形状 長さ 10mm 以下推奨)の肥料を散布することができます。

> **⚠ 注意**
>
> 含水率 20%以上の肥料は使用しないでください。タンク底部に固着し散布性能に影響が出るおそれがあります。

◎散布量の設定

散布する肥料の種類により、下表を目安に、シャッター開度を設定してください。

OPS187，217，247 すべて同じです。

シャッター開度目盛と散布量 kg/10a 車速6km/h PTO回転数540rpm

肥料の種類	シャッター開度																			
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
ペレット状物	—	—	—	—	—	—	—	25	45	70	100	130	160	200	240	285	345	405	470	505
粉状物（石灰等）	—	—	—	—	—	—	—	—	25	35	45	65	75	90	105	120	140	165	185	220
大粒状物（化成等）	—	—	—	—	—	25	50	90	105	160	215	275	345	430	505	—	—	—	—	—
小粒状物（ようりん等）	—	—	—	25	60	65	125	215	320	460	605	—	—	—	—	—	—	—	—	—

有機ペレット散布機 OPSシリーズ（295～385L） ※上記は凡その目安としてご利用ください。

◎散布量と車速の決め方

例）１０a 当り、粉状石灰を 60kg 散布したい場合

散布表より粉状物の散布量の中から 60kg より小さい値 **“45kg”** のシャッター開度 **“11”** を選択します。

Ａ：散布表の車速　　Ｂ：散布設定量に対して、散布表の中で一番近い量

Ｃ：散布設定量（散布したい量 kg/10a）

上記より、以下のように数値を入れて実際に作業する時の車速を決めます。

$$\text{車速} = \frac{\text{A [km/h]} \times \text{B [kg]}}{\text{C [kg]}} = \frac{6 \text{ [km/h]} \times 45 \text{ [kg]}}{60 \text{ [kg]}} = 4.5 \text{ [km/h]}$$

したがって､シャッター開度を **11** 、作業速度を **4.5km/h** をねらって作業すると、60kg/10a 散布できることになります。

⚠ 注意

・散布表は、あくまで目安です。肥料の性状によって大きく異なる場合があります。

・初めて散布する肥料は、性状により散布量が異なる場合があるます。
散布表を基に、散布したい散布量の半分の散布量になるようシャッター開度を設定し、タンクには、散布したい散布量の半分の肥料を入れ、実際に散布作業を行い、タンク内の肥料の残量、もしくは、タンク内の肥料がなくなったタイミングを確認して、シャッター開度の段数調整を行い、散布量の増減を行ってください。

◎肥料の投入

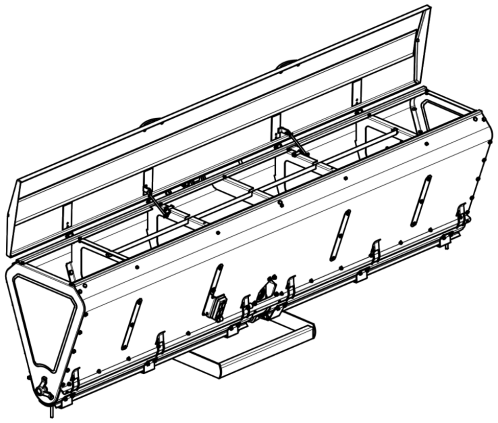
⚠ 危険

- タンクに肥料を投入する時は、トラクタのエンジンを停止させ、アジテータを絶対に回転させないでください。守らないと、万が一、動き出した場合、死傷事故につながるおそれがあります。

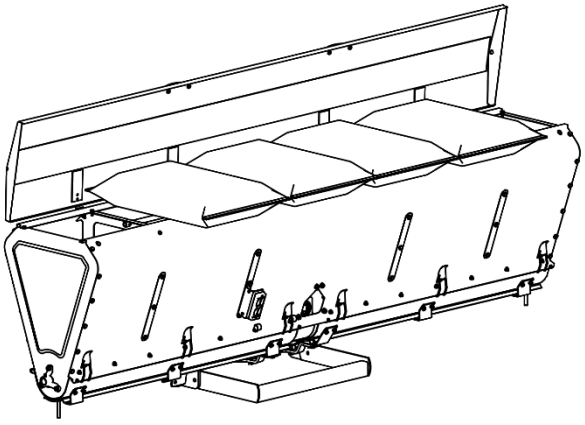
⚠ 注意

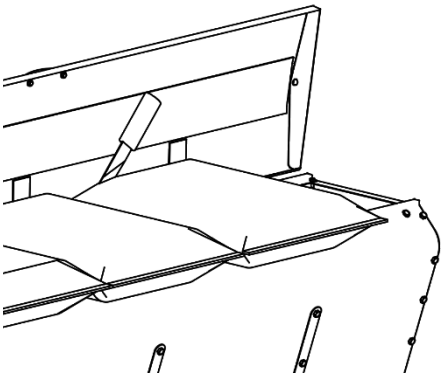
- 異物が混入した肥料や湿った肥料を使用した場合、散布ムラや機械故障の原因になりますので使用しないでください。
- 肥料は、散布する圃場で作業直前にタンクに入れてください。タンクに肥料を入れた状態で長時間路上走行すると、振動によって肥料が固まり、機械故障の原因になることがあります。
- 移動中は PTO を必ず切ってください。守らないと機械故障の原因になります。

① トラクタのエンジンを停止させて、タンクのフタを開け、シャッターが閉じていることを確認してからタンクに肥料を投入してください。



② 散布物をタンクに入れる為に、油圧操作で本機を地面まで下げてください。タンク上部のフタを開け、肥料載せ台へ肥料袋を並べて置き、タンクの上方で袋をカッターナイフなどで一袋ずつ切れ込みを入れ開封し、タンク内へ肥料を投入してください。



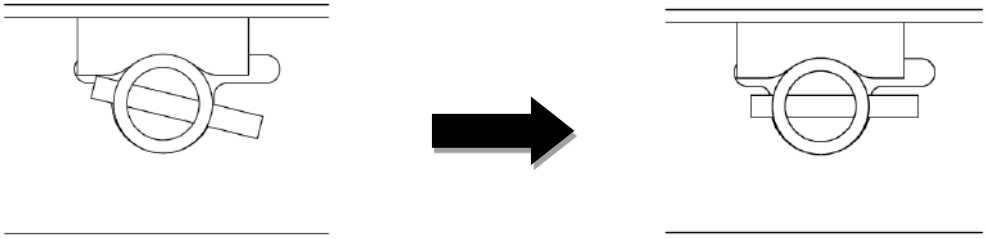


肥料載せ台パイプの着脱方法

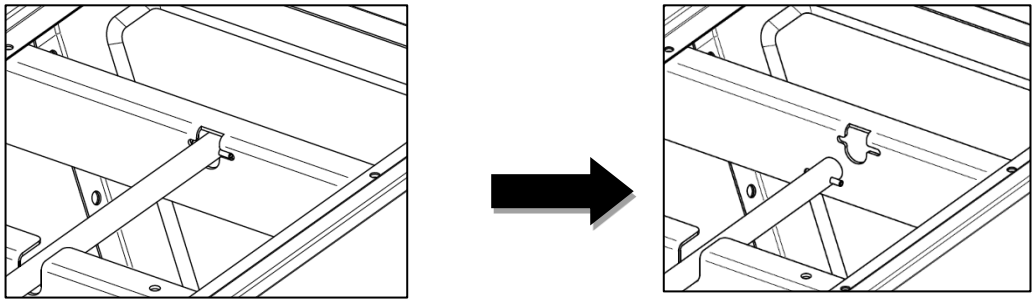
肥料載せ台のパイプは、工具不要で簡単に着脱ができます。

・取り外し

① パイプを回転させ、スプリングピンの方向と、ガイド溝の方向を合わせる。



② スプリングピンとガイド溝が合ったらパイプを持ち上げながら引き抜いてください。



・取り付け（取り外し手順と逆）

パイプのスプリングピンの方向とガイド溝の方向を合わせ差し込み、パイプを回転させ溝とスプリングピンの方向をずらし抜けないようにしてください。

片側散布の方法　リモコン仕様

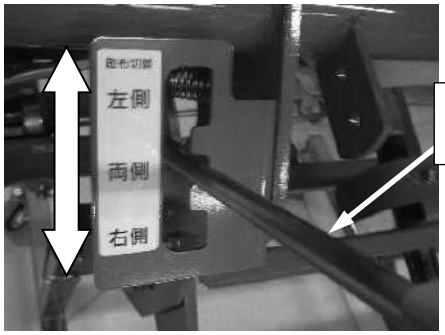
※リモコンでの左右片側散布の切替操作は行えません。
　下記要領にて左右片側散布切替を行ってください。





① シャッターが閉じていることを確認してください。
　両側・片側散布の切り替えは、必ずシャッターを
　全閉にしてから操作してください。

② 散布切替レバーを散布したい側へ（左側、右側）
　操作してください。

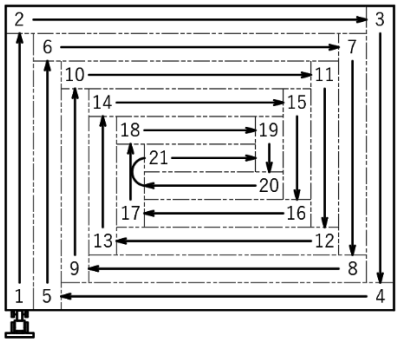


シャッターが開いているときにレバー操作を行なうと、シャッターの誤作動につながりますので、必ずシャッターが全閉の状態で操作してください。

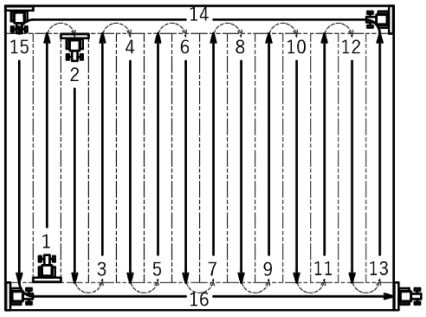
散布方法

主な散布方法の例を上げます。圃場条件に合わせてお選びください。

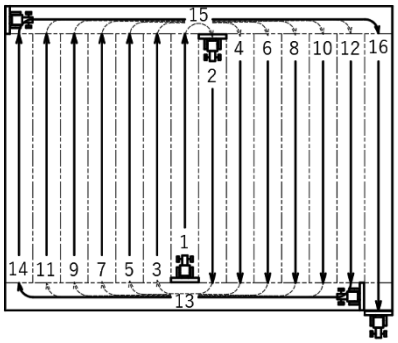
① 外回り散布



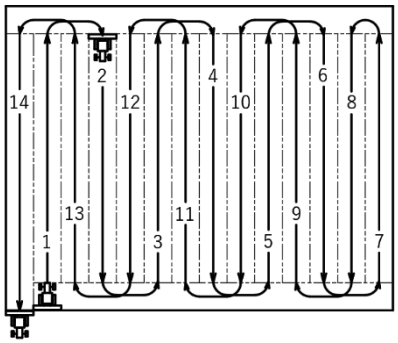
② 往復散布



③ 回り散布



④ ひとうねおき散布



圃場の面積が大きい場合は、圃場の各所に肥料を置いておくと効率よく肥料の補給を行うことができます。

散布作業

⚠危険

- アジテータが回転している時は、絶対に手や衣服の端を入れないでください。アジテータはゆっくり回転していますが、トルクが強く、巻込まれると取り外すのが困難で、大変危険です。守らないと、アジテータに巻込まれて死傷事故を起こすおそれがあります。
- トラブルの原因を取り除く時は、必ずトラクタのエンジンを停止してから行なってください。守らないと死傷事故につながるおそれがあります。

⚠警告

- エンジン回転数の急激な上昇は慎んでください。散布物によっては機械に損傷を与える場合があります。
- 異音が発生した場合は、直ちにアジテータの回転を止め、トラクタのエンジンを止めてください。その後で、原因を取り除いてください。

① リモコンシャッターのリモコン電源を入れて、散布表を基に目的の散布量に合わせてシャッター開度を設定してください。(設定方法は、P.41“散布量の設定”項を参照ください。)

② 肥料を投入したら、周りに人がいないことを確認し、トラクタのエンジンを始動させ、本機を油圧操作で作業位置までゆっくり持ち上げてください。圃場の散布スタート位置まで移動してください。

③ トラクタの走行速度の設定(主変速、副変速)が合っているか確認してください。

④ PTO クラッチを「ON」に入れてください。アジテータが回転を始めます。
PTO クラッチの接続は、エンジン回転数を必ず下げた状態で接続してから、徐々に回転数を上げてください。
異音が発生した場合は直ちに PTO を切り、エンジンを停止してから点検・処置してください。

⑤ 走行を開始し、リモコンシャッターの肥料散布ボタンを「出」を押すとシャッターが開き、散布が開始されます

⑥ 肥料が出て、散布走行します。

⑦ あらかじめ設定した作業速度になるよう、トラクタの走行速度を調整してください。
散布作業速度は 2～8[km/h]の範囲が標準です。

⑧ 散布工程が終了したら、リモコンの「止」を押して散布を停止します。

運転者が運転席を離れる場合は、必ずエンジンを止め、駐車ブレーキをかけてください。
作業中、補助作業者はできるだけ機械から離れて作業をしてください。また、機械に人を近づけないようにしてください。

点検・整備

⚠ 警告

- 点検、整備、清掃、洗車するときは、平坦で固い場所で行ってください。２人で作業するときは、お互いに合図しあって作業してください。思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 点検、整備、清掃、洗車するときは、トラクタの駐車ブレーキをかけ、ＰＴＯを中立にし、必ずエンジンを停止してください。また、エンジンが始動できないようキーを抜いてください。
- 本機が下がることを防止するため、トラクタ 3 点リンクの油圧ストップバルブを閉めてください。さらに本機の下へジャッキスタンド入れ安全を確保してください。
- 回転部は、停止していることを確認してから、点検、整備作業を行ってください。
- 変形、破損などの異常を発見したら、速やかに修理を行ってください。

【守らないと】

死傷事故につながるおそれがあります。

- ハーネスなど電装品に、被覆の剝がれなど作業前に点検してください。

【守らないと】

ショートして火災事故を引き起こすおそれがあります。

- 保守、点検、調整で外したカバー類は、必ず取付けしてください。

【守らないと】

機械に巻き込まれて、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 注意

- 点検、整備に必要な工具類は、きちんと管理し、目的に合ったものを正しく使用してください。
- 点検、整備には手袋、メガネを着用し、手、目の保護をしてください。
- トラクタのエンジンをかける時は、回りに人がいないことを確認してから行ってください。

◎ボルト、ナットのゆるみの点検

作業開始前、および作業終了後に、各部のボルト、ナットのゆるみを点検し、増し締めを行ってください。新品の場合は、使用開始から 2～3 時間後に点検し、増し締めを行ってください。

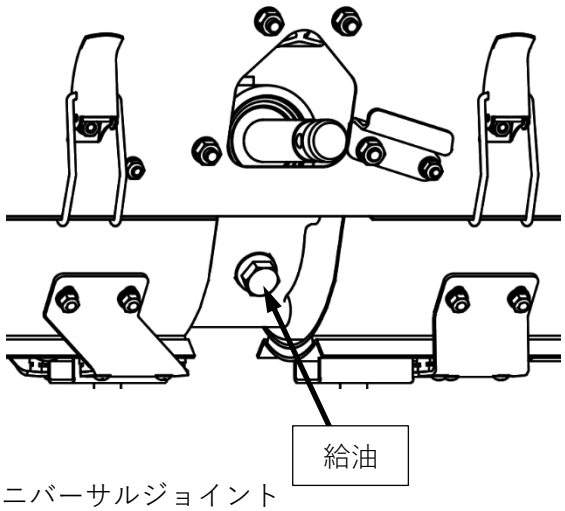
◎給油

本機は工場出荷時に給油して出荷されますが、下表に基づいて給油、注油を行ってください。

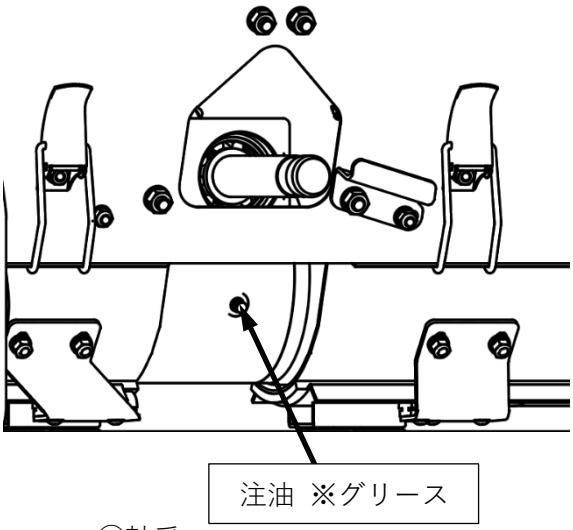
NO.	給油箇所の名称	給油箇所	オイルの種類	給油の間隔	備考
①	ミッションケース OPS187	1	＃３２０	各作業シーズン前	全量交換 90cc
②	ミッションケース OPS217 OPS247	1	グリース	各作業シーズン前	適量
③	ユニバーサルジョイント	6	グリース オイル	作業前後	適量
④	軸受	2	グリース	作業前後	適量

給油位置は図に、交換時期は表に示します。これに従って給油を行なってください。
尚、表以外の滑動部にもギヤオイルを塗布してください。

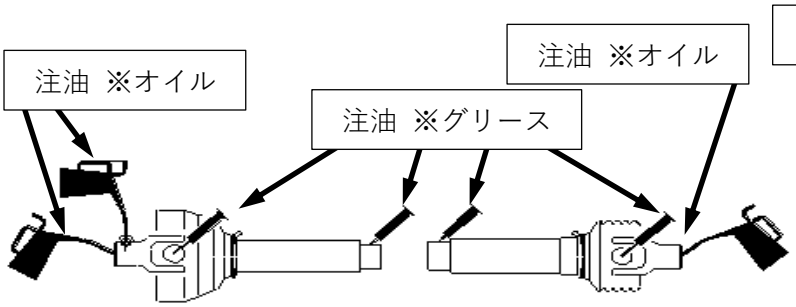
① ミッションケース OPS187



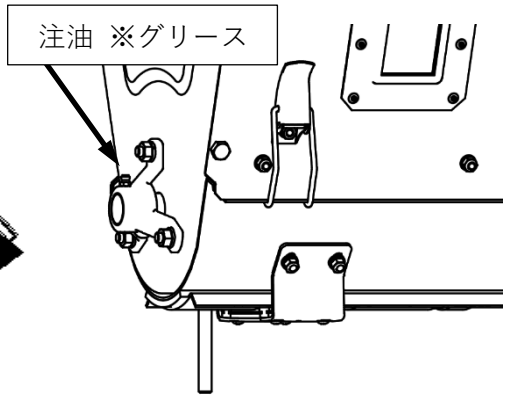
② ミッションケース OPS217/247



③ユニバーサルジョイント

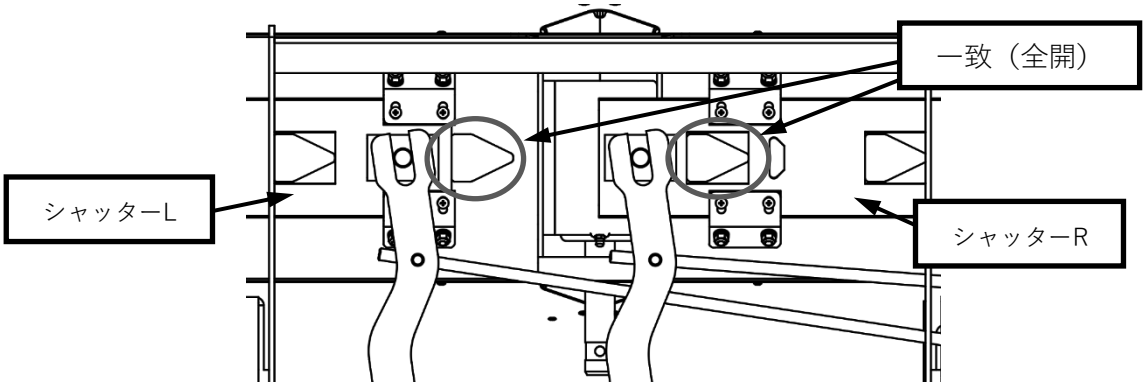


④軸受

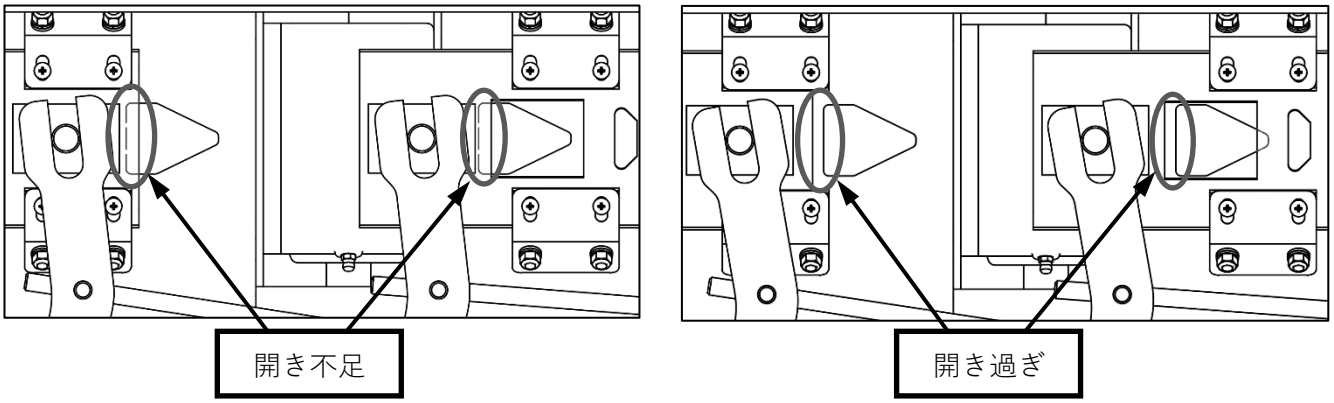


◎シャッターの開度調整

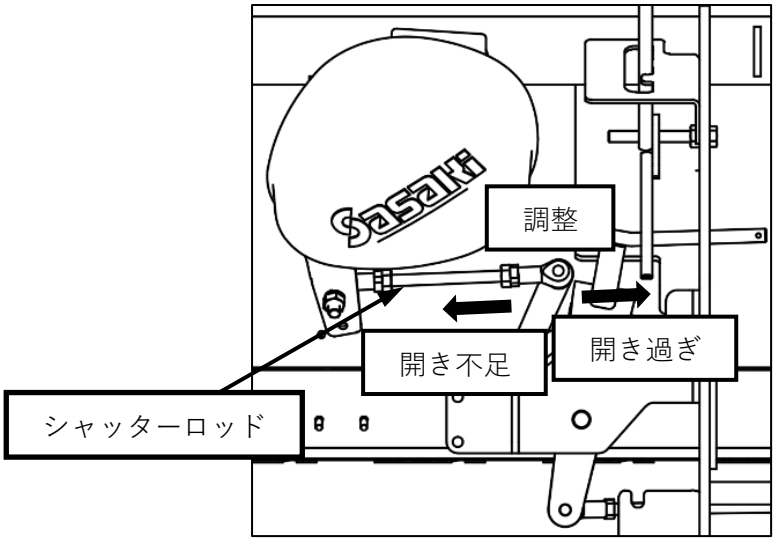
シャッター開度を全開にした時に、シャッターが完全に開いているように調整してください。
調整後、開度を全閉にした時、完全に閉まっていることを確認してください。
シャッター調整手順
開度設定を『20』に設定し、リモコンの『出』ボタンを押し、シャッターを全開にした状態で、下図のように、タンク底の吐出口とシャッターL/R の吐出口が一致し完全に開いていることを確認してください。



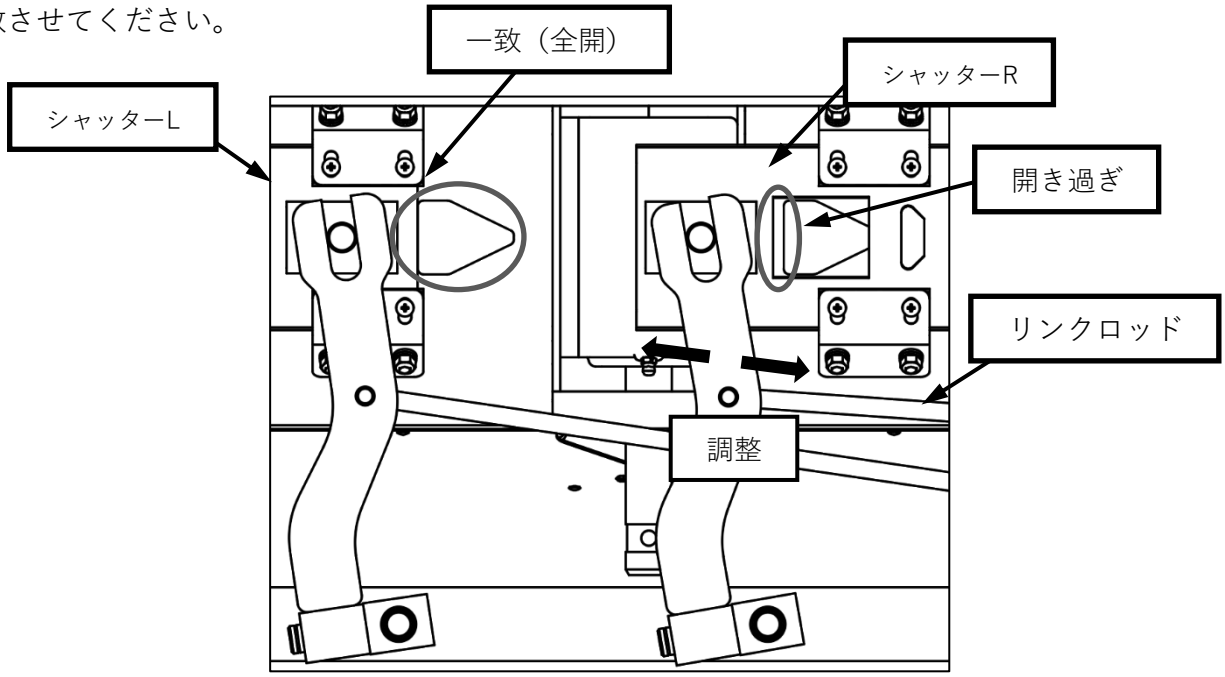
② シャッター全開時、下図のようにタンク底の吐出口とシャッターの吐出口が一致していない場合は、リモコンシャッター本体のアーム先端の連結金具を基準とし、シャッターロッドのナットをゆるめてシャッターリンクと連結金具の芯間距離の調整を行い、吐出口を一致させてください。



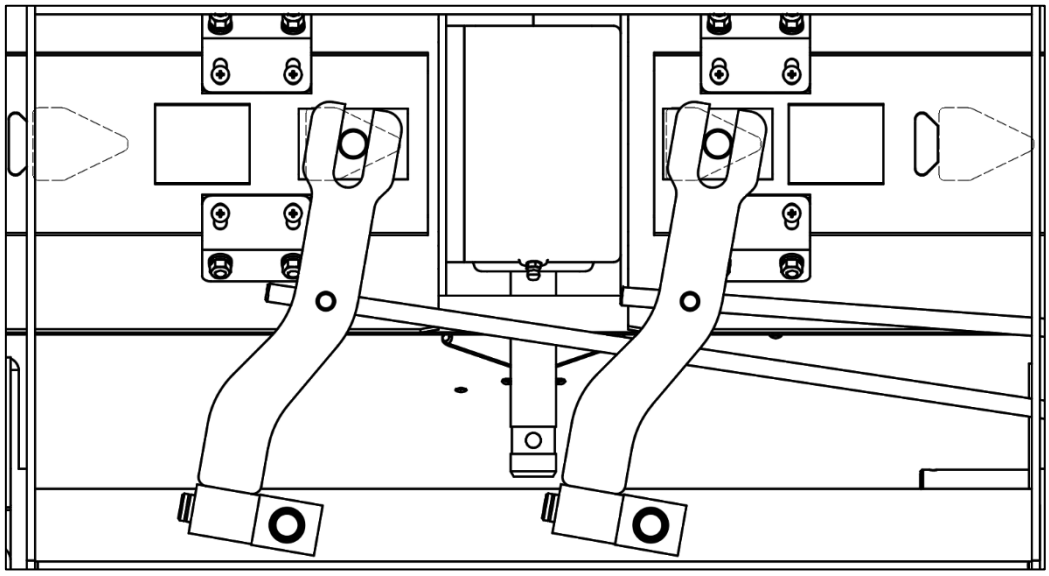
●開き不足の場合は、シャッターリンクと連結金具との芯間を縮める。
●開き過ぎの場合は、シャッターリンクと連結金具との芯間を広げる。



③ 左右のシャッター開度が異なる場合は、②の手順でシャッターL の吐出口を一致させ、下図のように、シャッターR に連結されるリンクロッドの芯間距離を調整し、シャッターR の吐出口を一致させてください。



④ リモコンの『止』ボタンを押し、シャッターを閉じた状態にして、下図のように、吐出口とシャッター口が隙間なく、完全に閉じていることを確認してください。



重要

「全閉」の時は、必ずシャッターが完全に閉じている状態にしてください。

保守管理

次のような場所での保管は避けてください。

●雨の当たる場所、湿気やゴミ、ホコリの多い場所

●直射日光の当たる所や高温になる所、極端に寒い所

●振動の激しい所

●油煙や湯気の当たる所

●強い磁場の発生する所（モータ、トランス、磁石のそばなど）

⚠ 注意

点検・水洗い時はトラクタのエンジンを停止してください。

【守らないと】

巻き込まれてケガをするおそれがあります。

重要

リモコン、受信機は多くの電子部品を使用していますので水濡れ厳禁です。雨ざらし、洗浄機や水道ホース等での直接の水洗いはしないでください。

①作業シーズン中の保守管理

（1）作業終了後は本機をよく清掃し各箇所に給油をしてください。

（2）各部のボルト・ナット類の緩み、ピン類の脱落がないか点検してください。

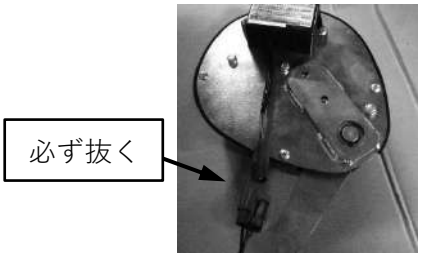
②作業シーズン終了後の保守管理

（1）各部の清掃を完全に行い、特にシャッター周りの分解清掃をしてください。

（2）各部を点検し、損傷した部分があれば早めに修理または部品交換してください。

（3）格納するときはスタンドを立て湿気やホコリのない場所に安定させて格納してください。

（4）電源ハーネスと受信機の接続を解除してください。抜き取った電源ハーネスはトラクタキャビン内に引き入れてください。



（5）電装品（リモコン等）については、湿気やホコリのない場所に保管してください。湿気の多い所や屋外での保管は、結露等で電子部品が故障する場合があります。

重要

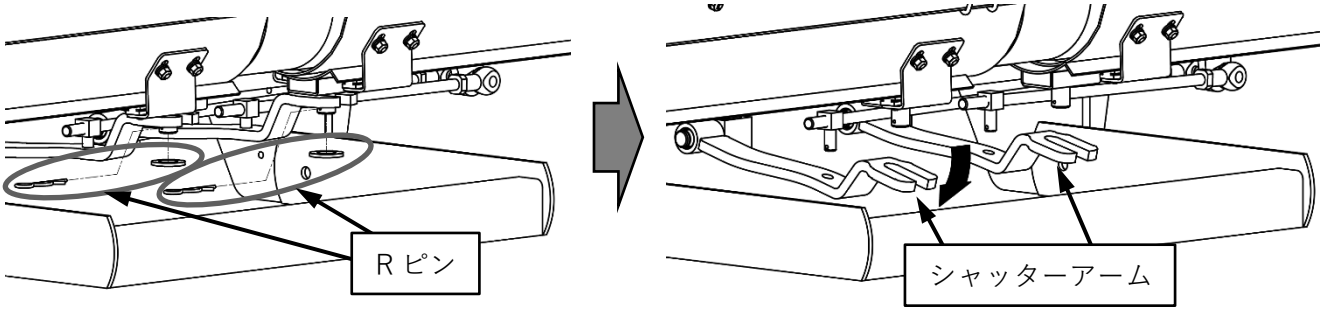
作業シーズン終了後、タンク内に残った肥料はすべて取り除き清掃してください。そのまま放置すると、シャッターの固着、各部の腐食などにより、正常に作業できなくなることがあります。

◎シャッター部の分解清掃

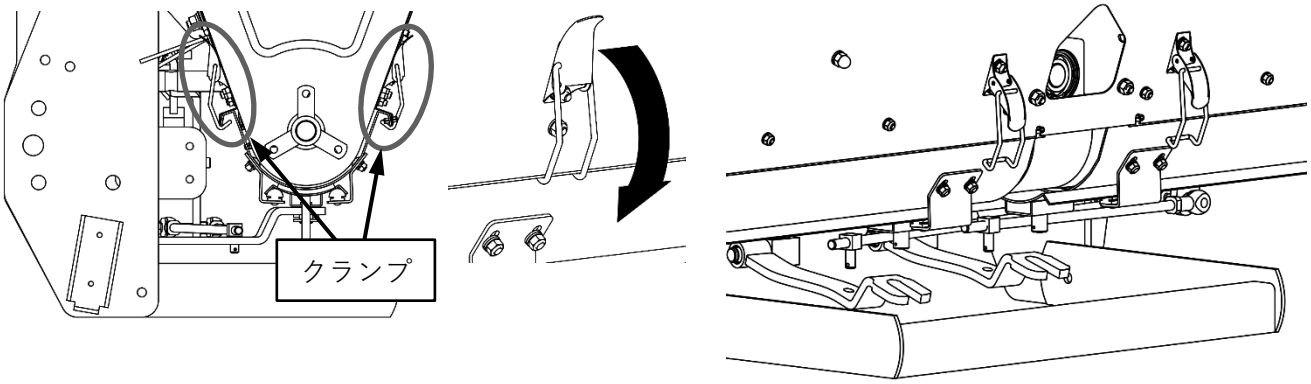
以下作業を行い、各部を掃除・洗浄してください。

（1） シャッターを全開の位置にします。

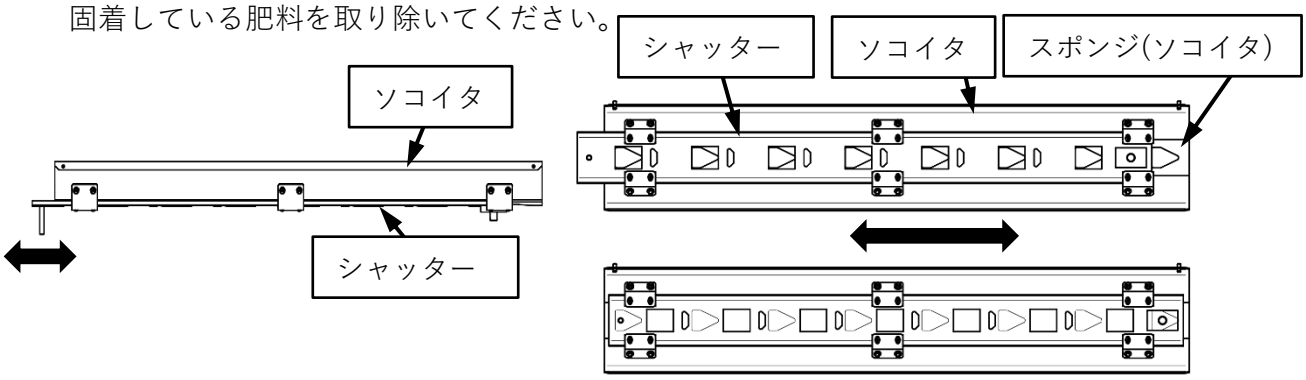
（2） シャッターを押さえているＲピンを抜き、シャッターアームを下げてください。



（3） タンク前面、背面にあるクランプを外し、ソコイタとシャッターを取り外します。



（4） ソコイタを固定しシャッターを左右にスライドさせながら、シャッターとソコイタの間に固着している肥料を取り除いてください。



※ ソコイタに貼り付けているスポンジ(ソコイタ)は、鋭利なものに触れると損傷する場合があります。損傷するとシャッター開閉トラブルの原因になりますので取り扱いには十分注意してください。

（5） 清掃、組立後、シャッター開閉操作を行い、必ずシャッターが完全に閉じていることを確認してください。

灯火器について

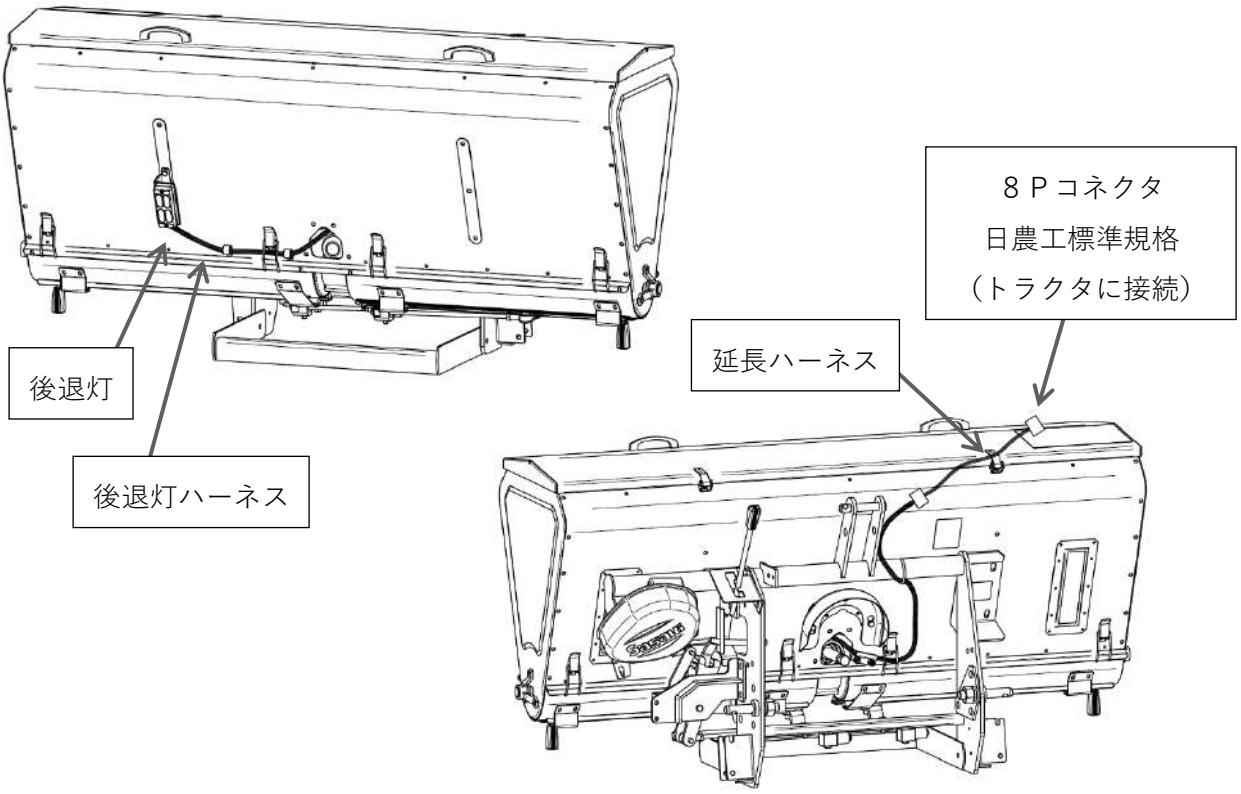
本機への配線は、トラクタへ本機を装着してから行ってください。

⚠ 注意

- 配線は取扱説明書をよく読んでから行ってください。
- コネクタは確実に接続し、水で濡らさないようにしてください。ショートするおそれがあります。
- 後退灯ハーネスはジョイント付近にリピートタイで固定されています。作業前に回転部に巻き込まれないように緩みがないか確認してください。

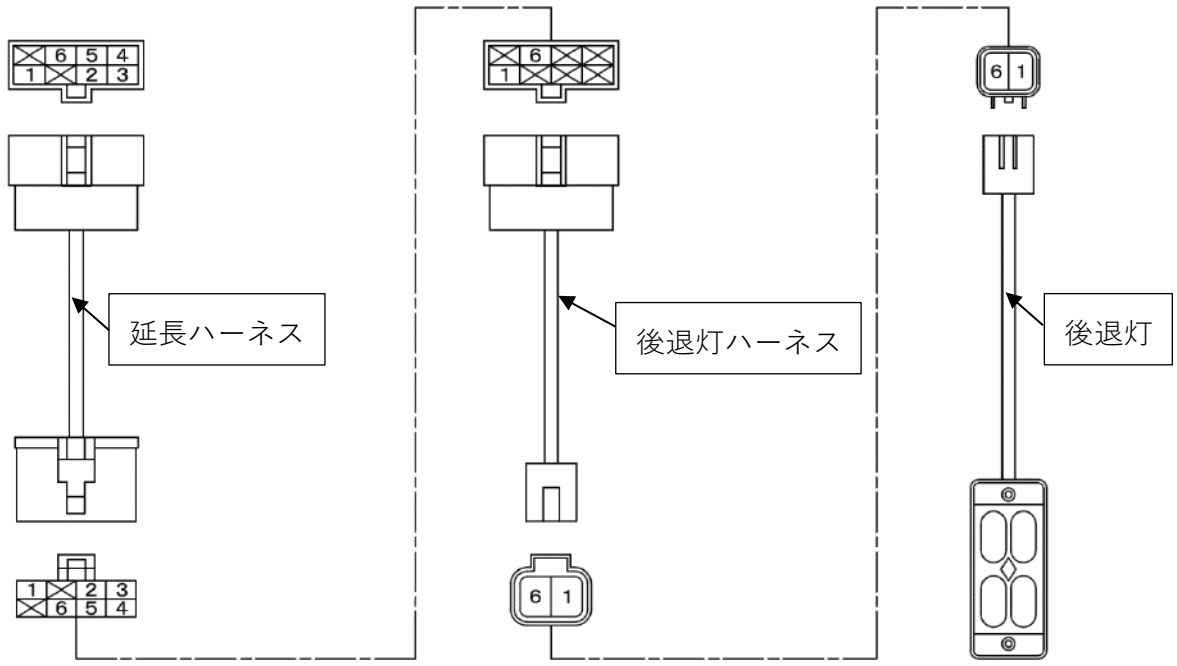
重要

- 本機には後退灯が装備されています。
- ハーネスの取り外しの際は、コネクタ接続部の土や汚れ、肥料はきれいにふき取り、水分はエアーブローをかけるなどをして、濡れたままにしないでください。破損の原因になります。
- 長時間使用しないときはトラクタから延長ハーネスを外してください。バッテリーがあがる可能性があります。また、ハーネスの端子がさびないように湿気のない場所で保管してください。
- トラクタ側のコネクタが日農工標準規格であることを確認してから接続してください。
- トラクタのコネクタが日農工標準規格ではない場合はトラクタメーカー販売店にお問い合わせください。
- ハーネスを配索し直す場合、必ず元の位置に固定してください。
- トラクタから作業機を外す際は、延長ハーネスと後退灯ハーネスの接続コネクタをはずし、延長コネクタはトラクタの中に格納してください。



灯火器配線図

↑ トラクタ８Ｐカプラへ接続



延長ハーネス

1	白	接地
2	黄	方向指示灯(左)
3	赤	制動灯
4	緑	方向指示灯(右)
5	黒	尾灯
6	茶	後退灯

後退灯ハーネス

1	白	接地
6	茶	後退灯

後退灯

1	白	接地
6	黒	後退灯

※日農工標準規格

トラブルの原因と処理方法

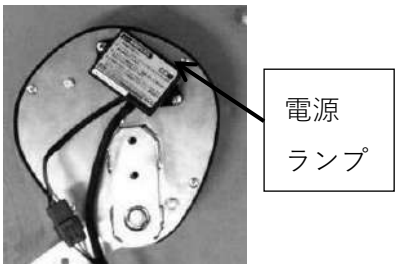
現象	原因	処置
● 作業中ジョイントから音が出る	● ジョイントに角度がついて使われている	● 作業機を水平に取り付ける
● 持ち上げ時入力軸を破損する	● ジョイントが長過ぎる	● ジョイントを適正な長さに切断する
● 作業中作業機が大きく振動する	● ロワリンクのチェックチェーンが緩い	● チェックチェーンを左右均等に張る
● ジョイント取付のセットボルトが折損する	● セットボルトを確実に締め付けていない。 ● 異物が混入している。	● 確実に締め付ける ● 異物を取除く
● シャッターが動かない	● 異物が挟まっている ● コネクタがきっちりと接続されていない ● ヒューズが切れている ● ハーネスが断線している ● シャッターにシャッターアームが接続されていない	● トラクタ停止、電動リモコンシャッターのハーネスの接続を外し状態で異物を取り除いてください ● コネクタを再度奥まで入れて接続してください ● ヒューズを交換してください (ブレードヒューズ 30A) ● ハーネスを点検してください ● シャッターとシャッターアームを接続してください
● ミッションから異音	● ウォームギヤの焼き付き	● 販売店へご連絡ください
● ミッションが熱い	● オイル・グリースの量が適当でない	● 規定量まで充填してください ※「保守管理」項の給油を参照
● アジテータ付近から異音	● アジテータが歪み、タンクに接触している	● 販売店へご連絡ください

○リモコンシャッター

※リモコンシャッターが動作不良の場合には、リモコン表示部内容を確認し、「表示内容と処置」項を参照して、表示内容に応じた処置を行ってください。

※処置後は受信機電源を再度オンしリモコン電源も再度オンしてください。
異常が解消されると正常に動作します。

●表示内容と処置

表示内容	症状	処置
受信機ON?	・受信機の電源がオフで電源ランプが点灯していない。  	・トラクタのキースイッチをＯＮする。 ・コネクタ類が抜けている。組付け要領を参照しコネクタ接続を再確認する。 ・端子部腐食の可能性があります 接点復活剤等を塗布して、動作確認する。 ・バッテリー接続部のヒューズ切れや腐食の可能性があります、確認し交換する。 ・電装品トラブル、販売店に連絡する。
	・電源ランプは点灯している。	・リモコンを施肥機に向けて操作する。 ・受信機電源を再度オンし、リモコン電源も再度オンする。 ・リモコンと受信機がペアかを確認する。 ・リモコンを部品で購入時はペアリング作業が必要です。販売店へ連絡する。
シャッタ開です 止押す	・シャッターが全閉まで閉じていない。	・止ボタンを押す。 シャッターが全閉位置まで閉じます。
開　異常 閉　異常	・シャッター動作中の過負荷でモータがロックした。	・シャッターアーム連結部を外して動作させ、動く場合は、シャッター部に異物等詰まっていないか確認し、掃除する。 ・5 分間ほど休ませてモータを冷却させる。 ・電装品トラブル、販売店に連絡する。
シャッタ 異常	・施肥機側リモコンシャッター本体内のセンサートラブル。	・販売店に連絡する。

※処置後は受信機電源を再度オンしリモコン電源も再度オンしてください。
異常が解消されると正常に動作します。

主要諸元

型式	OPS187				OPS217			
装着方法	直装	0S	3S	4S	直装	0S	3S	4S
全長(mm)	685							
全巾(mm)	1870				2170			
全高(mm)	795							
重量(kg)	121	126	146	151	146	151	171	176
タンク容量(ﾘｯﾄﾙ)	295				340			
作業巾(mm)	1800				2100			
作業速度(km/h)	2～8							
適応トラクタ(PS)	20～40				25～55			

型式	OPS247			
装着方法	直装	0S	3S	4S
全長(mm)	685			
全巾(mm)	2470			
全高(mm)	795			
重量(kg)	161	165	186	191
タンク容量(ﾘｯﾄﾙ)	385			
作業巾(mm)	2400			
作業速度(km/h)	2～8			
適応トラクタ(PS)	30～70			

●電動リモコンシャッター部

無線装置	総務省技術適合基準取得品使用
電波仕様	周波数：２.４ＧＨz 帯域
	通信方式：双方向通信（リコモンと受信機１対１のみ動作）
	最大出力：１ｍW以下
	電波到達距離：障害物なし見通し約１５ｍ
	電波環境悪化時：通信遮断で動作停止（作業機の陰、トラクタ前の陰）
リモコン電池	使用電池：単三２本（アルカリ電池推奨） 電池寿命：連続使用で約２０時間（電源ランプ点滅時：電池量警告） ※電池の種類や能力によって異なります
	電池交換時期：電池量警告時
受信機電源	バッテリー１２Ｖ（トラクタバッテリー直結取り出し）
	過電流保護機構：電源ハーネス内ヒューズ （自動車用ヒューズ３０アンペア）

M E M O

M E M O

購入日　　年　　月　　日

型式

シリアル番号

Sasaki

株式会社
ササキコーポレーション

ホームページ http://www.sasaki-corp.co.jp

本社・工場	〒034-8618 青森県十和田市大字三本木字里ノ沢1-259	TEL 0176-22-3111 FAX 0176-22-8607
製品窓口	〒034-8618 青森県十和田市大字三本木字里ノ沢1-259	TEL 0176-22-0170 FAX 0176-25-3127
部品窓口	〒034-8618 青森県十和田市大字三本木字里ノ沢1-259	TEL 0176-25-3170 FAX 0176-25-3171
北東北営業所	〒034-0001 青森県十和田市大字三本木字里ノ沢1-75	TEL 0176-23-0354 FAX 0176-23-9655
仙台営業所	〒989-1631 宮城県柴田郡柴田町東船迫2-4-11	TEL 0224-58-7780 FAX 0224-58-7782
関東営業所	〒329-0201 栃木県小山市粟宮1241-9	TEL 0285-45-8911 FAX 0285-45-8910
新潟営業所	〒954-0051 新潟県見附市本所1丁目14番17号	TEL 0258-61-1810 FAX 0258-62-3160
岡山営業所	〒702-8002 岡山県岡山市中区桑野110-2	TEL 086-274-9508 FAX 086-274-9510

2512-APG6511000